

<中山間>

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
新規立ち上げ	訪問集落	<ul style="list-style-type: none"> 現状の8市町村9カ所の集活センターに続く新規立ち上げとしては、安田町について役場とともに支援 この他については、R3集落実態調査の結果や小さな集落活性化事業推進をきっかけに、新たな集活センター候補地域を洗い出していく。 	<p>【安田町（中山、大野地区以外）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新規立ち上げを目指す「つながる～絆～安田町内会」（以下「町内会」という。）の活動を支援 R3年度に町内会がワークショップを実施し、安田地区集落活動センター設置計画を策定 7/19町長に対して、町内会が集落活動センター設置要望書を提出 設置検討協議会で、具体的な事業内容や拠点施設、スケジュール等を協議（9/28、11/1） 集落活動センター「なめかわ」及び「いしはらの里」への視察（12/11） R5.3月開設予定 <p>【安芸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落実態調査の結果を分析し市担当課と協議 調査の回答の中で集落活動センターに取り組んでみたいとの意向のある地域の「まちづくり懇談会」（各地域で地域福祉などを話し合う）に参加したところ、地域の意識醸成は未着手の状況であった。 <p>【室戸市吉良川（日南・大平地区以外）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 吉良川小学校の空き教室の活用と、公民館のコミュニティーセンター化により、集落活動センターを開設せずとも、住民が希望する活動ができるようになった。 	<p>【安田町（中山、大野地区以外）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 拠点施設の選定 町内会の役員は昼間は仕事をしている現役世代が多いため、仕事や家庭との両立が課題 <p>【安芸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まちづくり懇談会」がコロナ禍のため十分に開催できておらず、住民の声を集約できていない。 	<p>【安田町（中山、大野地区以外）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月から仮の拠点施設で活動を開始し、具体的な事業計画等の協議を行う予定 <p>【安芸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> まちづくり懇談会への参加や小さな集落活性化事業の取組を通じて、市の集落支援への関わりを促し、候補地域の掘り起こしを行う。 <p>【室戸市吉良川（日南・大平地区以外）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小さな集落活性化事業の実施を通じて、市担当課に市全体の集落支援の方向性の検討を促しながら、吉良川地区での再度のアプローチの可能性を探っていく。
	地域の元気づくり事業費補助金の活用	<ul style="list-style-type: none"> 地域の活性化に向けた動きにつなげる、活動の担い手を確保する取組の掘り起こしを行い、活用を提案していく。 事業の実施を通じて次のステップに進む支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 補助金の活用に関する相談のあったグループについて、活動状況の聞き取りと、市町村を交えた持続的な運営体制等の協議 新たに体験イベントを企画している住民への補助金の概要説明 	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保や持続的な運営体制の構築 個人が企画・運営するイベントへの支援のあり方 地域づくり活動への市町村の方針の明確化と支援体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画作成と補助金活用に向けた支援を行う。 体験イベントの企画について、随時、進捗などの聞き取りを行う。 補助金の活用可能性のある地域や取組について、市町村と一緒に掘り起こしを行う。

項目		取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
集 落 活 動 セ ン タ ー	うちんくのビジネス塾 アドバイザーの活用状況	<p>・既存の集活センターの活動の発展や持続に向け、ビジネスの視点を持って取り組む意識醸成につなげるため、時期を捉えて活用を促していく。</p>	<p>【東洋町甲浦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サツマイモの加工品開発に取り組むため、うちんくのビジネス塾（6/25、9/6）と試作（7/16、8/10、8/25）を実施 ・サツマイモ収穫イベント（10/1） ・第3回ビジネス塾（10/12） ・集活センター主催のハロウィンイベントで、試作品の試食アンケートを実施（10/30） ・第4回ビジネス塾にて、ハロウィンイベントでのアンケート結果を分析し、商品化に向けた今後の方向性を確認（12/15） <p>【室戸市日南・大平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため中断しているビジネス塾の再開に向け、前回までのビジネス塾の復習と、今後の進め方を協議（9/13） ・約1年半ぶりに開催した第4回ビジネス塾で、「ぼたなすジャム」を試作し、価格、瓶の大きさ、ラベル、賞味期限、食品表示などを検討（12/13） <p>【芸西村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R3年度のアドバイザー活用後、地元の仙頭酒造と連携して、7月に新商品「酒粕プリン」を販売開始 ・地元小学生から提案のあったお菓子の商品化に向けた講習会を開催（8～9月） ・商品化できた製品を、集マルシェにて販売予定（3/12） <p>【奈半利町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2年度ビジネス塾の実施後、各部門長による月1回の定例会を継続し、予実管理の徹底に努めている。 <p>【セミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安芸管内の集落活動センターなどを対象にした「選ばれる商品づくりセミナー」（衛生管理の基本の「き」）を実施（11/28） 	<p>【東洋町甲浦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お台所部（加工品づくりの部会）の組織化と、中心となって活動する部員の掘り起こし ・試作結果などを記録し、これまでの経緯を振り返りながら事業を着実に進めていくこと <p>【室戸市日南・大平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設が建設中のため、営業許可・届出等の手続きができず、試作活動の継続も困難 ・ぼたなすのストックがないため、ぼたなすを使った試作が収穫時期（7～10月）までできない。 <p>【芸西村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業を担う人材の確保 <p>【奈半利町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部門の人材不足が深刻であり、新たな担い手も確保できていない。 <p>【その他のセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな取組への意欲や、既存事業への課題意識があまり見られない。 <p>【セミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管内の集落活動センターなどの意欲喚起 	<p>【東洋町甲浦】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントへの参加などを住民に呼びかけ、部員の確保・組織化を目指す。 ・試作品を商品化し、海の駅東洋町やイベントでの販売（12月頃～）を目指す。 <p>【室戸市日南・大平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月頃に行う予定のキラメッセ室戸でのテスト販売に向けて、協議・検討・準備を行っていく。 ・第5回ビジネス塾を、テスト販売の終了後に実施予定（11～12月頃） <p>【芸西村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役場HP等で集活センターの新規会員の募集を継続 ・集マルシェでの顧客の反応やアドバイザーの意見を元に、商品のブラッシュアップと販売拡大を目指す。 ・首都圏の事業者との取引の継続及びさらなる販路拡大に取り組む。 <p>【奈半利町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定地域づくり事業協同組合制度の活用を検討を継続 <p>【その他のセンター】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他団体の事例紹介や集マルシェへの視察などにより、やる気・気づきの機会をつくる。 <p>【セミナー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・セミナーで学んだことを実践につなげられるよう、担当の地域支援企画員によるサポートを継続する。
	既存センターの 支援				

項目	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>集マルシェ・特産品販売会への参加の働きかけ等</p>	<p>・コロナ禍により、活動の幅が狭まっている中、外部の反応や他地域の集活センターの活動に眼を向けられて刺激を受け、さらなる活動のモチベーションを高めるよう、地域内の各センターに参加の働きかけを行っていく。</p>	<p>【全体】 ・集マルシェ・特産品販売会にて販売可能な商品があるセンターや市町村に対して、参加や視察の働きかけを行った。 <集マルシェ参加> ・10/16：椎名集落活動センターたのしいな ・3/12（予定）：椎名集落活動センターたのしいな 集落活動センターなかやま 芸西村集落活動センターげいせい ・安芸管内の集活センター同士の連携を推進。甲浦集落活動センターなぎのハロウィンイベントに、椎名集落活動センターたのしいなが体験コーナーを出店した。（10/30） ・高知県よろず支援拠点と連携して、安芸管内の集落活動センターなどを対象にした「選ばれる商品づくりセミナー」（11/14チラシ作成・11/21商品撮影の基本の「き」）を実施 ・商談会・セミナーなど、各種事業の案内</p> <p>【室戸市日南・大平】 ・室戸市の日南・大平元気再生プロジェクトにより、県関係部局（農業・林業・地域本部）が連携しながら、ぼたなすの生産拡大やシキミ園の再生などを支援（6/3・10/31全体会、4/26・8/30農業部会、5/27・9/27林業部会、5/23・7/20・10/4人材確保部会）</p>	<p>【全体】 ・これまで参加したことがない遠方でのイベントやセミナーなどについて、参加への心理的なハードルが高い傾向にある。 ・近場でのセミナーについても、参加に至らないところもあり、人手不足の影響も見受けられる。 ・加工品の販売を目指す場合、商品開発から販売に至るまで、商品企画や必要な手続きなど段階に応じた支援が必要 ・高齢化・人口減少により、出品物の生産者、加工品づくりや販売などの担い手不足が深刻化している。</p> <p>【安田町中山】 ・集マルシェ（3/12）では自然薯の加工品（シフォンケーキ）を販売する予定であるが、自然薯の収量が例年の1/3程度のため、原料の確保に苦慮している。</p> <p>【室戸市日南・大平】 ・中山間地域で一次製品の生産を維持するには、多様な働き方を想定しながら、人材募集・育成、独立・定着までを、市町村・県関係部局が一体となって支援する必要がある。</p>	<p>【全体】 ・集マルシェに出店する集落活動センターには、実行委員会などへの積極的な参加を促すとともに、ブースづくりや食品表示の適正化などに向けた個別支援を行う。 ・集マルシェに出店しないセンターには、集マルシェへの視察を通じた情報収集や他地域のセンターとの交流を促す。 ・高知県よろず支援拠点と連携しながら、センターのスキルアップを図る。 ・商談会・セミナーなどの案内と、参加後のフォローアップを行う。</p> <p>【安田町中山、室戸市日南・大平】 ・集落活動センターが実践する「産業をつくる」取組に対して、人材確保や技術力の向上、販路の確保など、市町村・県関係部局が幅広く情報共有・連携しながら支援を行う。</p>

項目	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>R 4 実施箇所</p> <p>小さな集落</p>	<p>・R3年度中（R4.2月～3月）に7市町村の首長を訪問し、小さな集落活性化事業を説明。取組の意向を聴き取り。</p> <p>・地域本部としては、面積も広く集落数も多い室戸市をR4年度実証事業候補とする方針で取り組むこととした。</p> <p>・北川村については、担当課として県事業の活用に向けた前向きであったことから、R4年度実証事業候補として加える。</p>	<p>【室戸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・郷地区で観光イベントに取り組む住民などと室戸市が協議（6/30、7/13、7/22） ・第1回集落活動センター設立準備委員会を開催（9/20） ・アドバイザーを導入して、第1回ワークショップを実施し、郷地区の魅力・課題・やってみたい事業等を議論（10/29） ・第2回ワークショップで、実際に取り組んでいく事業を議論・決定（12/3） <p>【北川村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北部地区（二又・島・久江ノ上）では、R2年度に北部地区再生プロジェクトを立ち上げ、R2年度は話し合いの場づくりをして、R3年度には北部地区人・農地プランなどの事業に着手 ・R4年度から集落再生に向けた活動を開始するにあたり、継続・進化できる取組とするため、地域本部や本課との協議（8回程度）を行った。 ・8/1にコーディネーター（地域おこし協力隊）が着任し、約2週間の研修期間を経て、8/17から北部集会所にて勤務開始 ・交流人口の拡大を目的として、地区の活動拠点に利用予定の小屋をイベント形式で改修する「地域交流×DIYイベント」を実施（1/14、1/21） ・憩いの里Instagram開設（1/10） 	<p>【室戸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイザー派遣終了後のワークショップの運営 <p>【北川村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で取り組みたいアイデアが多くある中、その中で実践を目指すものの優先順位づけ ・住民のアイデア・協力体制を活かした、主体的で持続可能な活動とすること ・住民側と行政側との事業実施に対するスピード感覚の差（事業計画の精査、補助事業の事務手続きをしている間に、住民の意欲が衰えてしまう。） 	<p>【室戸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター候補が1名見つかったため、正式採用に至るようサポートを行っていく。 ・ワークショップの運営力の強化に向けて、市へのサポートを行っていく。 ・7月に開催予定の夏祭りについて、今後の目標や展開をふまえた郷地区らしい内容にできるよう、市とともにサポートをしていく。 <p>【北川村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民の意向調査を通じて、実施事業の選定、スケジュールの作成、組織づくりを行う。 ・北部集会所にて月1カフェ事業の計画をしており、営業許可取得やその他必要事項に関する情報収集等のサポートを行う。 ・迅速な補助金申請手続きに向けて、村と本課との橋渡し役としてサポートを行う。
<p>R 5 以降の掘り起こし</p>	<p>・R4年度実施の2市村を除き、残る4市町について検討</p> <p>・4市町のうち、首長の集落維持に向けた危機感が強い馬路村と、室戸市同様面積があり集落数も多い安芸市をR5年度の実証事業候補とするよう、担当課と協議していく。</p> <p>・田野町、東洋町では、事業の必要性や地域の事情といった課題から事業着手が難しい。それぞれの町のニーズや地域活動を丁寧に掘り起こす取組を行っていく。</p>	<p>【馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村長と対象集落の現状、コーディネーター候補者について確認し、R5年度事業実施に向けた協議を行った。 <p>【安芸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落実態調査の結果を分析し、市担当課と候補地の掘り起こしを行い、「まちづくり懇談会」にて地域住民の声を集約した結果、実施可能性のある集落として奈比賀地区（長山・奈比賀・大磯）が挙げられた。 <p>【東洋町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野根地区での事業実施の可能性を検討 <p>【田野町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町長との協議（8/15） 	<p>【馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター候補となる人材が現状ではない。 ・地域にプレーヤーがいない。（住民の意識の醸成） <p>【安芸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動の中心メンバーが高齢であり、協議等を含めた地域活動への次世代の参加率が低い。 <p>【東洋町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区の現状に危機感を持つ地区長もいるが、活動の中心となる組織がない。 <p>【田野町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象集落は町中心部にあるため、住民があまり課題を感じていない。 	<p>【馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター確保に向けて、村のサポートを行う。 <p>【安芸市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情把握及びコロナ禍で休止中の集いの場やイベントの復活に向けた支援を行う。 <p>【東洋町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連続テレビ小説「らんまん」をきっかけとしたイベントの企画など、活動の掘り起こしを行う。 <p>【田野町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田野駅屋の機能強化に向けた検討などと合わせて、活動の掘り起こしを行う。

項目	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>特定地域づくり事業協同組合制度 (新規組合設立に向けた掘り起こし)</p>	<p>・現在立ち上がっている東洋町、馬路村の人材確保や運営を支援し、役場とともに事業を軌道に乗せていくことに取り組む。</p> <p>・随時、他市町村に2町村の事業進捗等を情報提供し、活用の働きかけを行っていく。</p>	<p>【奈半利町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域対策課が町長に制度説明（8/31） ・中山間地域対策課と制度に関する勉強会を実施（10/21、11/16） <p>【安田町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域対策課が地域創生課に制度説明（12/1） ・中山地区の住民アンケートで、ユズ園地の人的支援に関する要望が多かったことから、制度活用の検討に着手する可能性がある。 <p>〈東洋町特定地域づくり事業バツグン協同組合（R3.10設立）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1名採用・派遣開始（4/1～） ・総会（6/15） ・移住フェア（東京）への参加（6/19） ・移住フェア（大阪）への参加（6/26、12/10） ・1名採用・派遣開始（7/1～） ・農業人フェアへの参加（10/23） ・組合制度のブロック説明会及び意見交換会での事例発表（12/8） ・1名採用・派遣開始（1/4～） <p>〈馬路村地域づくり事業協同組合（R4.1設立）〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総会（5/24） ・移住フェア（東京）への参加（6/19、11/23） ・移住フェア（大阪）への参加（6/26、12/10） ・オンライン高知就職転職フェアへの参加（7/15～9/16） ・高知県東部移住フェア（東京）への参加（7/31） ・制度説明会での事例発表（9/20） ・ふるさと回帰フェア（東京）への参加（9/25） ・1名採用決定（R5.4/1～派遣）（10/3） ・中国四国もうひとつのふるさと探しフェア（大阪）への参加（10/8） ・四国暮らしフェア（東京）への参加（10/15） 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模な自治体では、マルチワーカーの働き口が確保できるほどの仕事があるかどうか。 ・事務局を担える人材の確保が課題 <p>【奈半利町、安田町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局の担い手 <p>【東洋町、馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員数が少なく、利用料が十分に確保できないため、赤字運営となっている（役場の支援がないと運営できない状況）。 ・職員数の確保 <p>【東洋町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチワークという働き方が認識されていないためか、職員の応募が少ない。 ・求人につながる広報媒体が少ない。 ・職員数が少ないため、派遣希望に対応することが難しい。 ・業種によっては、労働者派遣法で定められた賃金設定と、事業者が支払い可能な利用料に差があるため、組合の運営が厳しい状況が続いている。 <p>【馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局体制の強化。事務局長が兼任のため、役場、県、中央会の支援が必須。 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村への情報提供と、事業者の課題の掘り起こし <p>【奈半利町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、制度活用に向けた勉強会で協議を行っていく。 <p>【安田町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者を含めた協議や勉強会を実施し、方向性を決定していく。 <p>【東洋町、馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな職員の雇用に向けて、移住フェアへの積極的な参加や情報発信の強化などにつなげる。 ・各組合への伴走支援 <p>【馬路村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・派遣事業の円滑な開始

項目	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り起こし	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村役場や地域との協議や会話の中で、日頃の生活や仕事での困りごとや課題を拾い、他地域での取組を参考にしながら、デジタル化の取組と結びつけられるものがないか検討していく。 	<p>【室戸市日南・大平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼたなすは毎日2回(朝晩)の水やりが必要なことから、デジタル技術を活用した定時の水やりについて、可能性の検討を提案 ・ビニールハウスでの導入例は多く存在するが、露地栽培に対応した機材は高額であるため、栽培面積を拡大する際に費用対効果と照らし合わせながら改めて検討することとなった。 	<p>【室戸市日南・大平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小規模な露地栽培において、デジタル化で解決可能な課題の洗い出し 	<p>【室戸市日南・大平】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日南・大平元気再生プロジェクトの活動を通じて、困りごとの洗い出しとデジタル化の可能性の検討を行う。

<全体>

	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況</p> <p><知事発言抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりとお願いしたい。 ・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。 ・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村がエリア全体の集落支援のビジョンを描き、事業の横展開を見据えた取り組みとなるよう、丁寧な支援を行っている。 ・各市町村に駐在する支援員に役場内の動きなど情報収集をこまめにしてもらい、地域本部(振興監、総括)と密に共有していく。 ・市町村との協議や地域での会議、現場訪問などで直接意見交換したり話を聞き、現場の声を把握できる体制をとる。 ・こうしたことから、活動の行き詰まりや次の段階に進む際のネックとなる課題を具体的に把握し、課題を解決する方策を探るとともに、施策の改善に向けた声を担当課に届けられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな集落活性化事業の活用を通じ、各市町村の集落支援に対する首長の考え方や担当課での取組、地域での動きなどを聞き取り、市町村とともに対象地区の選定に取り組んだ。 ・小さな集落活性化事業に具体的に着手した地域では、住民の生の声の聞き取りや事業の選定など、アドバイザーやコーディネーターを活用しながら取組を進めることができた。 ・市町村駐在支援員は、役場内、集活センター、地域AP事業者、関係団体等の会議等に参加し、情報収集に努めた。 ・主要な取組や課題ごとに市町村と地域本部で検討の場を持ち意見交換を実施している。 ・R 3 年度後半から室戸市と実施している「日南・大平元気再生プロジェクト」で、地域おこし協力隊の募集や受け入れ体制の整備による人材確保・育成の取組の強化を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落支援に対する市町村の方針の明確化と、その方針に沿った支援体制の強化 ・外部人材に頼り続けない市町村のスキルアップが必要 ・集活センターの取組における地域の利便性の確保 ・少子高齢化の時代に見合った人材確保や受入体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・随時、市町村の方針を確認しながら、市町村とともに集落支援に取り組む。 ・集落活動センターと民間企業との連携の模索(宅配ボックスの設置など) ・日南・大平元気再生プロジェクトで得られたノウハウについて、人材の定着に課題のある他市町村への横展開も目指していく。 ・中山間地域・集落活動センターにおける農福連携の可能性の検討

令和4年度 地域本部における取組状況について

<中山間>

物部川地域本部

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
集落活動センター	新規立ち上げ	<p>■香美市物部町 昨年度は集活センターでの活動内容を定められず、立ち上げには至らなかったため、継続して活動内容を検討している。検討には市とともに参加し助言等を行いながら、集活センター立ち上げに向けた支援を行う。</p>	<p>■香美市物部町 【準備会の取組】 4～8月 集活センターの活動について検討を行い、①地域の体験観光や特産品づくりを行うグループの活動支援と②大栃ダム湖の整備・活用を目指すこととなり、まずは、大栃ダム湖の活用として、マルシェ（青空市）の開催を検討し、10/8開催を決定。 9月 マルシェ開催（青空市）に向け、出店者に開催趣旨や手続等を説明 10/8 マルシェ（青空市）開催。来場者数は677名。 11月 マルシェ（青空市）反省会を開催するとともに、出店者に準備会への参加を呼びかけ（9名が新たに参加）。 12月 集活センターでの具体的な活動に向けて協議。まずは参加者に企画書の提案を依頼中。 【地域への参加の呼びかけ】 昨年度に引き続き、地域の集会におもむき、取組状況の説明と参加を呼びかけ。 自治会長総会（4/21）、地域学校協働本部総会（5/20）、久保自治会総会（6/19）</p>	<p>■香美市物部町 想定するエリアが物部町全域と広く、集活センターの立ち上げに意欲がある住民が大栃地区を中心にいるものの、地域全体にまでの広がりには乏しい。</p>	<p>■香美市物部町 集活センター設立に向けての会合にも参加し、具体的な活動内容や拠点の検討への助言や、進行サポート等を行う。</p>
	訪問集落	<p>■香美市香北町五百蔵地域 ■香南市夜須町手結山地域 両地域とも一部の住民が検討を始めたばかりの状況。市の意向は住民主体の活動としたいことから、地域の状況を見守っているところであり、市と連携して適切な助言を行っていく。</p>	<p>■香美市香北町五百蔵地域 R3年度 地域の取組の状況等を聞き取り。地域の意向は、2～3年かけてじっくり話を進めていく。 ※ 中心人物は美良布地域集活センターの事務をされていた方で制度等は熟知されている方。 R4年度 市の補助金を活用して集会所を整備済。周辺集落と集活センターの立ち上げについて検討が続いている。</p> <p>■香南市夜須町手結山地域 5月 集活センターやアドバイザー派遣等の概要説明を行い、地域での取組状況等を聞き取ると共に、地域での話し合いを依頼。</p>	<p>■香美市香北町五百蔵地域 地域住民の集活センター設置の機運醸成</p> <p>■香南市夜須町手結山地域 地域住民の集活センター設置の機運醸成 ※地域での話し合いはなされておらず、一部の住民の意向のみに留まっている状況</p>	<p>■香美市香北町五百蔵地域 随時状況を確認しながら、必要に応じて県のアドバイザー派遣等の支援制度の導入を検討。</p> <p>■香南市夜須町手結山地域 随時状況を確認しながら、動きがあれば、市とともに協議等に参加。</p>
	地域の元気づくり事業費補助金の活用	<p>市と連携して事業を紹介し、支援を行う。</p>	<p>香南市野市町東中筋北地域で交流活動を検討していたため、実施に向けて助言をしてきたが、コロナ禍のため事業規模を縮小し、補助の活用を取りやめ、自前で実施。</p>	<p>特になし。 (活用する事業がない。)</p>	<p>市と連携して事業を紹介し、支援を行う。</p>

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
既存センターの支援	うちんくのビジネス塾 アドバイザーの活用状況	日々の支援の中で、課題等があれば、事業を紹介し、支援を行う。	<p>■岸本地域集落活動センター 事業の本格実施に向けた計画の磨き上げについて、うちんくのビジネス塾を活用。9/14に事前個別面談を行い、現在まで2回開催（10/18、11/8）。</p> <p>■美良布地域集活センター 県集落活動センター推進事業費補助金を活用して、新商品開発等でアドバイザーを受け入れている。</p>	その他の集活センターは、新たな取組を行っておらず、アドバイザー活用の要望に至っていない。	現在のところ、うちんくのビジネス塾アドバイザーを希望する集活センターはないが、支援の中で必要性があれば、活用に向けた働き掛けを行う。
	集マルシェ・特産品販売会への参加の働きかけ等	既存センターに積極的に働きかけを行う。	<p>中山間地域対策課からの連絡を受けて、各集活センターに出店の働きかけを実施。</p> <p>集マルシェ（10/16開催）に集活センター「チーム稲生」（桃アイス、びわ葉茶出品）、美良布地域集活センター（和のハーブシロップ出品）が参加。特産品販売会（10～1月開催）に美良布地域集活センター（和のハーブシロップ、かるかん出品）が出店。出店補助等の後方支援を実施。</p> <p>また、3/12に開催される集マルシェに参加する集活センター（西川地区集活センター、集活センター美良布）に対して出店補助等の後方支援を実施予定。</p>	上記のとおり複数の商品の出店につながっており、継続して支援を行う。	継続して、集活センターに積極的に働きかけを行う。
R4実施箇所	<p>■南国市 事業実施を予定している三和地域では、今後、地域が整理した3つの重点課題について、部会で具体的な取組を検討していく。</p> <p>市とともに事業化に向けた助言等、支援していく。</p>	<p>■南国市三和地域</p> <p>5/27 三和を良くする会役員会及び総会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市及び地域本部から集落実態調査結果、小さな集落活性化事業の趣旨、支援の概要等を説明 ・組織化に向け、規約等の作成 <p>6/21、30 地域役員・市と協議</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事業の進め方等について検討 <p>8/9 専門家現地視察に向けた事前協議及び現地確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域役員・市・地域本部が参加 <p>8/15 専門家現地視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門家（平井教授）との意見交換等を実施 <p>9～10月 各部会を随時開催。R4、R5事業について検討</p> <p>11/2 総会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会から事業案を説明 →一部疑義が生じた部分は了承に至らず <p>11/16 各部会からヒアリング（市・県）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業案のブラッシュアップ <p>12/5 総会開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業案の了承→補助申請へ <p>12/9</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三和の春祭り（R4事業）実行委員会開催 <p>12/26 交付決定（県）</p> <p>3月 三和の春祭りを実施予定</p>	<p>■南国市三和地域</p> <p>H30から地域の現状を話し合う場として「三和を良くする会」を立ち上げ、3つの重点課題（地域活性化、防災、少子高齢化）ごとの部会により、今後の取組を検討していくこととしている。</p> <p>重点課題のうち、防災対策については、住民の取組意識の希薄化が進み、訓練等への参加者が減少傾向にある。</p> <p>また、少子高齢化対策については、地域だけでは解決が困難な課題であり、効果的な取組の具体化や実現可能な目標設定の検討が必要である。</p>	<p>■南国市三和地域</p> <p>R4は実行委員会を中心に三和の春祭りを開催し、交流人口づくり等に取り組む。</p> <p>R5以降は各部会で検討してきた地区全体での防災活動や、地域内外・世代間の交流を推進するための事業を実施することとしている。</p> <p>R5事業（案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化対策部会 10～11月 交流事業（出会いのパーベキュー） ・地域活性化対策部会 8、3月 親子料理教室 10～11月 交流事業（みわりんピック） 1～2月 出前授業 ・防災対策部会 8月 地区全体による防災訓練等 	

小さな集落

項目	取組方針【P】	R 4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1Hを意識)
R5以降の掘り起こし	<p>■南国市 市北部（奈路、瓶岩、白木谷）では、今後地域の課題等の情報収集を進め、地域の意向に合わせた支援を検討していく。</p> <p>■香南市・香美市 事業説明を市に行い、実施に向けて働き掛けを行う。</p>	<p>■南国市 市は、7月に主な北部の地域（奈路、瓶岩、白木谷）で住民から意見を聞く場を設け、地域の現状・課題等を把握し、その課題等を課ごとに取りまとめ、庁内で協議 11月に庁内で協議した内容及び小さな集落活性化事業について、地域へ説明</p> <p>■香南市・香美市 年度当初の市長等への事業説明後、機会を捉えて市と協議している。 なお、香美市では、R4年度実施に向けて、香北町猪野々地域との協議（5/20）を行ったが、地域は補助に縛られることなく取り組みたい意向があり、実施しないこととなった。</p>	<p>■南国市 事業に対して地域の反応があまり無い為、今後あらためて説明することを検討</p> <p>■香南市・香美市 具体的な地域の選定に至っていない。</p>	<p>■南国市 白木谷については、地域内で一度検討するとの回答あり。引き続き状況を確認していく。（年度内に地域で話し合いを実施予定）</p> <p>■香南市、香美市 市との協議を継続して実施。 特に香南市については「自治会・まちづくり協議会」（市民と行政による協働のまちづくりを目指す取り組み）を進めており、この取り組みとの連携に向けた協議を進めていく。</p>
特定地域づくり事業協同組合制度 (新規組合設立に向けた掘り起こし)	他の地域の事例を紹介しながら、制度の利用に向けて取り組む。	制度説明会（9/20）への参加を市に依頼。	3市とも活用の意向なし。また、商工会にも照会したが希望事業者を見つけられなかった。 他地域の事例を紹介しながら、活用を検討。	他の地域の事例を紹介しながら、制度の利用に向けて取り組む。
生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り起こし	他の地域の事例を紹介しながら、制度の利用に向けて取り組む。	年度当初の市長等への事業説明後、機会を捉えて市と協議を継続。 来年度の高知県中山間地域デジタル化支援事業（草刈り実証事業）の要望調査に対しては、香南市香我美支所及び農林水産課に事業説明を行い、要望。（香美市は中山間地域対策課照会を受けて要望。）	地域からは具体的なアイデアが出てこないため、他地域でのアイデアや取組状況をご教授願いたい。	地域の集活センターに対して働き掛け等を行い、市の事業実施への支援を行う。

<全体>

	取組方針【P】	R 4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1Hを意識)
<p>R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況</p> <p><知事発言抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりとお願いしたい。 ・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。 ・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。 	集活センターの活動を含め、市の担当課との情報共有を図りながら、地域の行事やイベントに積極的に参加し、情報収集に努め、県事業の紹介を行う。また、地域からの相談に対しては、対応する県事業等の紹介・繋ぎを行っていく。 また、必要に応じて本課に対して地域の状況をフィードバックする。	日頃の業務を行う中で、情報収集に努め、課題の整理と対策に取り組む。 ・3市の担当課とは、協議等の際に情報交換・共有を行っている。 ・地域本部内にある5つの集活センターに対しては、常日頃から行事等に参加し、地域の方々から情報収集を実施している。 ・遊休農地の解消に向け、南国スタイルは南国市において農地を借り上げ耕作を実施。香美市土佐山田町平山ではユウカリ栽培に取り組んでいる。 ・南国スタイル（パプリカ）や南国にしがわ農園（グアバ）などにおいて、障害者雇用（農福連携）に取り組んでおり、情報収集に努めている。	<ul style="list-style-type: none"> ・集活センターや小さな集落といった地域以外の地域の声を収集出来ていない。 ・南国スタイルの遊休農地活用については、条件不利地が多く、耕作に至らない例も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・集活センターに対しては、引き続き行事等に参加し、情報収集に努める。 ・集活センターや小さな集落といった地域以外の状況についても市との協議等を通じて情報収集に努める。 ・課題等があれば、解決に向けて、関係機関と情報交換を行っていく。

令和4年度 地域本部における取組状況について

<中山間>

高知市地域本部

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
集落活動センター	新規立ち上げ	・R3年度高知県集落調査において、「集落活動センターに取組みたい」と回答した土佐山地域：7地区（梶谷、土佐山、平石、高川、桑尾、中切、東川地区）を主な訪問対象として、新規立ち上げに向けた活動を進めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月17日 土佐山地区区長会に出席 出席者より、センターは土佐山全域で立ち上げる方向であること、また、「土佐山夢づくりの会（※）」の場で協議していききたいとの意見があり、この意向を尊重していくことを確認 → 今後は、各地区を訪問せず、土佐山夢づくりの会を窓口として協議を行う。 ・8月18日 土佐山夢づくりの会 山本和正会長より状況聴取。 聴取内容は、課題と重複するため【C】に記載 <p>○現在、会議への同席を要請しているが、開催のメドは立っていない。 ※土佐山夢づくりの会 高知市が進める地域内連携協議会。H22年7月設立。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐山夢づくりの会では、R2年3月に「夢産地・土佐山 地域活性化計画」として、「（仮称）集落活動センター土佐山」設立に向けた方向性や運営内容等をまとめているが、長引くコロナ禍により計画推進に向けた機運が停滞している。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・土佐山夢づくりの会では、集落活動センターの話は随時出るのが進まない状況。要因として、各地区に先導役はいるが、それぞれ本業、本務が忙しく、各地区を調整できる人材が不在。 ・地域の課題解決として、（一財）夢産地とさやま開発公社が、土佐山全域からの軒先集荷（及び地域の見守り）や、JA撤退後の土佐山ストア運営といった役割（いずれも非採算部門）を担っており、センターの事務局も同公社に担ってもらいたいとの声もあるが、具体の動きに至っていない。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・土佐山夢づくりの会への働きかけ 同会の役員会（夢産地とさやま開発公社の関係者が含まれる）をはじめとする会議の場に参加することにより、センター設立に向けた機運醸成を図るとともに、課題解決に向けた調整、協議を進める。 ・高知市担当部署（土佐山地域振興課）との協議
	地域の元気づくり事業費補助金の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・R3年度：コロナ禍によるイベント中止で当補助金の取り下げを行った「梅まつり実行委員会（※）」に対して、 ①先んじて「小さな集落活性化事業」の活用を検討 ②事業導入が難しい場合は、再度、当補助金の活用を勧める。 <p>※梅まつり実行委員会 母体：中川をよくする会、オーベルジュ土佐山、(有)中川開発、中切・久万川・東川 各地区長等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・6月28日 梅まつり実行委員会（土佐山中川地区）への説明 「小さな集落活性化事業」の詳細な内容を説明 （同席：中山間地域対策課、高知市土佐山地域振興課） ・9月14日 土佐山中川地区への2回目の事業説明 土佐山地域振興課より、R5年度予算化を行っていない旨説明（理由）住民主体の具体的な提案がないため → これに対し、参加者からは「土佐山地域の振興策を考えるのが、市の役割では」との意見あり ・結果、R5年度「小さな集落活性化事業」の活用は見送り ・実行委員長より、「元気づくり補助金」導入に関する支援要請（12月）、申請・交付決定（1月）、実績報告（3月予定） →R5年2月25日～3月12日「嫁石の梅まつり」開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・「嫁石梅まつり」は土佐山地域最大のイベントであるが、コロナ禍等により3年連続で開催できておらず、地域において当事者意識が希薄になっており、再興に向けたハードルは高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・旧役員と現役員のつなぎ役を地域本部で担い、R4年度の「嫁石梅まつり」の成功体験を、次年度以降の「小さな集落活性化事業」の検討へ繋げていく。 ・鏡地域、春野地域でも、「地域の元気づくり事業費補助金」活用により、地域の活性化に繋げるよう、関係各課との情報共有と具体的な活用提案を続けていく。 ・R5年度は、現在支援している女性団体の支援に「元気づくり事業費補助金」が活用できないか、情報提供と活用提案を行っていく。
	既存センターの支援	<p>【うちんくのビジネス塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「梅の木」、「仁ノ万葉の里」とともに実際に活動する部員固めの段階にあるため、R4年度は、地域本部が関係機関（高知市関係課、高知農業改良普及所）とチームを組み、各事業の原価計算を行う。 ・専門家の助言を受ける体制（部会）が整った段階で、うちんくのビジネス塾の制度を導入する。 <p>【アドバイザー制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R2～3年度に導入しており、今後も必要に応じてニーズに応じて活用する。 	<p>【うちんくのビジネス塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各センターでは、以下の頻度で部会や定例会を開催しており、設備機器や原価計算等の検討を実施 「梅の木」の「創る（加工）部会」 → 毎月 「仁ノ万葉の里」の「カフェ部会」 → ほぼ毎週 <p>【アドバイザー制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月4日 「仁ノ万葉の里」において、「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理（基礎講習）（講師：高知農改6次化担当職員）」開催 → 部会の定期開催により、運営体制を構築 ・1月25日 「梅の木」において、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理について、高知農業改良普及所の6次化担当職員が講師となり、講習と具体的な衛生管理方法についての検討予定 	<p>【うちんくのビジネス塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「梅の木」、「仁ノ万葉の里」とともに、運営以前の備品等の話し合いを行っており、外部からアドバイスを受ける体制が整うには時間を要する。 	<p>【うちんくのビジネス塾】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き部会運営を支援し、足腰を強くしたうえで、受け皿となる体制強化に努める。 <p>【アドバイザー制度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と協力しながら、基礎的な研修・講習を通じて素地をつくり、専門的な助言が必要になればアドバイザー等を導入していく。
	集マルシェ・特産品販売会への参加の働きかけ等	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの集落活動センターが参加できる方法での提案を行い、活用を促す（役員会のない場合は代表者に声掛け）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各センターの役員会等で具体的な事例を紹介し活用の声掛け実施 ・3月の集マルシェで、「仁ノ万葉の里」PR用のチラシを配布予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・いずれのセンターにおいても内部の運営体制の強化に努めており、販売や情報発信できる事業実施には時間を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各センターが参加できる方法で提案を行い、活用を促し続ける（役員会のない場合は代表者に声掛け）。 ・R4年度末に、「梅の木」、「仁ノ万葉の里」とともに拠点施設が整備され、活動が本格化されるので、活動に合わせた参加方法を提案する。

項目	取組方針【P】	R 4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1Hを意識)
R 4実施箇所	・実施箇所なし			
小さな集落 R 5以降の掘り起こし	・高知市担当部署（土佐山地域振興課、鏡地域振興課）と協議し、5月に開催される土佐山地区区長会、鏡地区区長会で制度の説明を行う。 ・希望地区に対して詳細な制度活用の説明会を開催し、次年度の予算化に向けて調整する。 ・春野町甲殿地区など他地域への制度説明を検討	・5月17日 土佐山地区区長会において説明 ・5月27日 鏡地区区長会において説明（再掲） ・6月28日 梅まつり実行委員会（土佐山中川地区）への説明「小さな集落活性化事業」の詳細な内容を説明（同席：中山間地域対策課、高知市土佐山地域振興課） ・9月14日 土佐山中川地区への2回目の事業説明 土佐山地域振興課より、R5年度予算化を行っていない旨説明（理由）住民主体の具体的提案がないため → これに対し、参加者からは「土佐山地域の振興策を考えるのが、市の役割では」との意見あり ・結果、R5年度「小さな集落活性化事業」の活用は見送り ○春野町甲殿地区長への働きかけを継続中（「仁ノ万葉の里」の活動状況を見てから検討したいとの意向）	・事業実施に向けては、 1.市による対象集落の選定 2.集落支援員となる人材の確保 3.市の予算化 が必須であるが、高知市担当各部署は導入に消極的であること、次年度に新事業を活用するには、住民から8月末までに申し入れが必要なことから、住民感覚とは乖離がある。	・土佐山地域の振興策について、土佐山地域振興課に協議・働きかけを続けていくとともに、その他の地区について、地域活性推進課、鏡地域振興課、春野地域振興課、地域コミュニティ推進課にも情報提供し、具体的な活用方法を提案する。
特定地域づくり事業協同組合制度 (新規組合設立に向けた掘り起こし)	・中山間地域対策課の事業P Rを踏まえ、必要に応じた情報提供。	・問い合わせなし		・引き続き、必要に応じて情報提供を行っているが、市の反応は薄い。
生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り起こし	・R 4年度地方創生拠点整備交付金を活用し、スマートヘルス事業を梅ノ木地区（拠点：集落活動センター梅の木）でモデル的に導入予定。 （内容）R 5年2月完成予定の拠点施設に端末を設置し、住民がフェリカカードを持参して、自身の体重や血圧の測定等を実施し、保健師とのオンライン指導につなげる。 ・その他、高知市関係課から情報提供等の要請に応じて対応する。	・デジタル化支援事業費補助金の本年度2次募集に向けて、高知市鏡地域振興課・土佐山地域振興課が5月に中山間地域対策課に相談。 → 土佐山地域振興課の生活用水の水源の水位見守り、水栓の開閉に関しては、鳥獣対策課所管の「高知県中山間地域生活支援総合補助金」で対応。鏡地域振興課のスマートヘルス事業は補助対象外との報告を受ける。	・スマートヘルス事業について、R 5年度は市単で実施。長期的な予算確保に向けて、鏡地域振興課では財源を探している。 ・「集落活動センター梅の木」には、常駐職員がおらず、常に開いていないため、活用できる日が限定される。 ・今後の運用に関しても、常時の見守りになっておらず、近隣の住民しか活用しない可能性が高い。	・活用の可能性のある事案などは、具体的な活用方法を併せて提案していく。 ・引き続き、情報提供等を行う。

<全体>

	取組方針【P】	R 4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1Hを意識)
R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況	・地域のニーズや社会情勢の変化等にしっかりアンテナを張りながら、日常的なやり取りや、地区のイベント、役員会等に積極的に参加して地域課題を十分把握し、集落活動センターの円滑な運営や住民活動の推進に向けて、関係機関と連携して支援していく。	【主な取組状況】 ○「梅の木」（「創る（加工）部会」） ・部会の定期的な開催、定例会への参画（毎月） ・高知市地域活性推進課ほかと連携した拠点施設の管理条例等の法整備に向けた調整 ・H A C C P に沿った適正な衛生管理、営業許可・届出 → H A C C P 勉強会の実施（1月～2月） → 営業許可・届出に関する保健所への相談等支援 → 高知市保健所への相談（12月）、営業許可申請、届出（2月～3月上旬を予定）、立入検査（3月予定） ・原価計算、備品リストアップ、加工施設の衛生管理等 ・R5年3月11日「落成式」に向けた支援 ○「仁ノ万葉の里」 ・R4年5月8日 センター設立 ・活動計画の策定・実施支援 → 地域内外の集いの場づくり（土曜日、体験・交流事業）特産品（島ラッキョウ）の生産、販路開拓（ひろめ市場珍珠堂） ・H A C C P に沿った適正な衛生管理、施設（カフェ）改修協議、営業許可 → H A C C P 勉強会の実施（8月） → カフェ部会での改修、衛生管理、備品等の協議 → 高知市保健所への相談（1月）、営業許可申請、届出（2～3月予定）、立入検査（3月予定） ・R5年3月26日「落成式」に向けた支援	・活動に参画している役員が固定化しており、活動を活発にしていくためには、新たな人材の巻き込みが必須であり、活動の楽しさはもちろんのこと収益性も必要になってくる。 ・ボランティア的な活動から、収益を生み出していく活動に転換していくためには、大きな乖離がある。	・高知市地域活性推進課、鏡地域振興課、高知農業改良普及所等とチームを構成し、地域のニーズに即した支援継続 → 集落活動センター「梅の木」（月1回以上）、集落活動センター「仁ノ万葉の里」（ほぼ毎週） ○「梅の木」「創る（加工）部会」 ・加工品の製造・出荷（「鏡むらの店」、4月～） → HACCPの考え方を取り入れた衛生管理や食品表示等に関する勉強会の実施（4月～） → 年間生産計画、出荷体制、表示等 ○「仁ノ万葉の里」 ・年間通じた部会（土曜市部会、カフェ部会、支え合い部会、生産・特産部会、体験・伝統文化継承部会）運営等の活動計画策定 → 各部会の活動計画、既存のイベントの情報発信、地域を巻き込んだ実施体制の確立（R5年は下記3部会から活動） ・カフェ部会 → 店作り、地域特産物を生かしたメニューづくり、HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の実践等 ・土曜市部会 → 年間通じた定期的な開催、出品者拡大の呼び掛け、利益を意識した開催方法の検討 ・生産・特産部会 → 島ラッキョウ、サツマイモ、その他安定生産と販路拡大

<知事発言抜粋>
・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりとお願いしたい。
・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。
・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。

令和4年度 地域本部における取組状況について

<中山間>

嶺北地域本部

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
集落活動センター	新規立ち上げ	・新規立ち上げの可能性がある集落を訪問し状況も確認しながら、町村の意向も踏まえて支援する ・最近設立された集活Cを中心に、継続・発展を支援していく。	・新規立ち上げの意向がある集落は現状なし(町村と確認) ・最近設立された集活Cの支援 【森】拠点施設の整備中(R5.5完成予定) 【地蔵寺】具体的な事業への助言と予算確保に向けた支援 【松ヶ丘】特産品開発のアドバイザー導入や予算確保に向けた支援 【いわはら】特産品の販促支援 【立川】飲食店及び周辺の整備等の支援	・現在、管内4町村で12カ所できているが、それ以外で何らかの立ち上げ等の活動に取り組んでいる集落は見当たらず、町村の意向もない状況である。 ・現状の集落活動センターでカバーしている集落以外は、高齢化率も高く、活動していくための人材がいない。	・新規立ち上げの可能性がある集落を訪問し状況も確認しながら、町村の意向も踏まえて支援する ・最近設立された集活センターの円滑な運営、発展を中心に支援していく。
	地域の元気づくり事業費補助金の活用	・地域で活用できる事業があれば申請等の支援を行う	○活用実績 大川村青年団(大川村) 岩原夢描田会(大豊町)	特になし	・同補助金の活用の可能性がある地域に事業紹介を行い、活用の際には申請等の支援を行う。
	既存センターの支援	・現状では活用する集活Cはないが、要望があれば対応する	・「なめかわ」の拠点施設の運営等でアドバイザーの活用を打診したが、当面は現在の取り組みを継続することとで保留中。	・中山間アドバイザーは活用しているが、ビジネス塾アドバイザーを導入するほどのビジネスまでには至っていない。	・ビジネスの発展、専門的な助言をもらいたい等の集活センターに対して、必要に応じてビジネス塾、アドバイザーの活用を打診する。
	集マルシェ・特産品販売会への参加の働きかけ等	・積極的に働きかけを行う	いしはら(ラー油)、いわはら(スタミナ漬け)、汗見川(ピザ)、なめかわ(苔テラリズム体験)	・特産品等を持つ集活Cにはご案内できている	・特産品等を持つ集活センターにご案内を継続していく
小さな集落	R4実施箇所	・可能性のある集落を訪問し状況も確認しながら、町村の意向も踏まえて支援する	・町村からの要望無し	・集落活動センターでカバーしている集落以外は、高齢化率も高く、活動していくための人材がいない。	・可能性のある集落を訪問し状況も確認しながら、町村の意向も踏まえて支援する
	R5以降の掘り起こし	・可能性のある集落を訪問し状況も確認しながら、町村の意向も踏まえて支援する	本山町 「本山町まちなか活性化推進委員会」(R4.10.1設置) ・本山町中心部の活性化について、地元地区長も参加して議論が始まり、観光/商業目線だけでなく、住民の生活基盤についても検討される予定。 ・1/5 町中心部に暮らす住民の生活基盤も検討することから、「小さな集落」事業を活用して委員会を運営することを町担当課に提案、了承。 大豊町(豊永地区) ・R3.9クロスフィットジムが開業され、ここを拠点に交流人口の拡大を図り、豊永地区の活性化を図る取り組みがスタート 大豊町(杉地区) ・大豊町最大の観光資源である杉の大杉とどぶろくによる交流人口の拡大による地域活性化の取り組みが1月にスタート	・商店街活性化や観光資源の活用だけでなく、多くの住民が暮らす集落としての議論も深まると期待する。	・5年度の会議開催は7回を予定。 ・今後の検討の方向によっては、集落活動センター設立も想定される。
		・クロスフィット事業の経営の安定	・地域活性化に向けた地域住民のコンセンサスづくり	・クロスフィット事業の開業に向けた支援に引き続き、地区内にある体験・飲食・宿泊事業者等との連携を推進する取り組みを支援 ・第5期産振計画に位置づけることも検討 ・どぶろくによる地域の活性化の取り組みについては、第5期産業振興計画に位置づける予定 ・産振計画に位置づけることについては、事業者及び大豊町も了解済	
特定地域づくり事業協同組合制度 (新規組合設立に向けた掘り起こし)	・町村の意向を踏まえて支援する	・前田副部長訪問 8/4本山町 8/9土佐町・大豊町 ・中村部長訪問 10/14本山町、大豊町	・冬場の仕事がない。(特に大豊町) ・事業推進に関する役場の組織体制が弱い(本山町)	町村としっかり情報共有する。 ・土佐町長「先進地の成功事例を研究し、来年度以降検討しようかと思う」	
生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り起こし	・町村の意向を踏まえて支援する	○実施予定 ・本山町吉延地区 : 鳥獣被害対策/農業用水遠隔管理 ・土佐町松ヶ丘地区 : ドローン肥料散布 ・〃 立割地区 : 農業用水の遠隔管理 ・大川村朝谷地区 : 牛舎/黒牛の健康管理 〃 はちきん地鶏鶏舎/温度管理	・中山間の課題はデジタル化だけでは解決しづらい(結局、最終的には、人間による作業が必要となるが、その人役が確保できない)	・町村に働きかけを行う	

<全体>

	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況</p> <p><知事発言抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりとお願いしたい。 ・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。 ・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。 	<p>集落活動センターの会長・役員との協議、また定例会や事務局会には可能な限り参加し、課題の共有や必要な支援を行う。</p>	<p>【西峯】総会、杉苗育成状況確認(2月に1回)</p> <p>【いわはら】総会、特産品づくり支援</p> <p>【東豊永】総会、役員会(毎月)</p> <p>【あなない】総会</p> <p>【立川】総会、御殿茶屋への設備導入</p> <p>【汗見川】事務局会(毎月)</p> <p>【なめかわ】総会、事務局会(毎月)</p> <p>【いしはら】総会、宿泊連絡会(毎月)</p> <p>【松ヶ丘】総会、役員会(月に2~3回)</p> <p>【森】総会、役員会(月に2~3回)</p> <p>【地蔵寺】総会、役員会(毎月)</p> <p>【大川村】総会</p>	<p>・将来のリーダーとなり得る人材がおらず、安定的かつ継続的な取り組みが心配な集活センターがある。(特に大豊町)</p> <p>・地域で行われる会議やイベントに可能な限り参加しているが、夜間や休日に行われることが多く、町村に一人で駐在している地域支援企画員の負担が大きい。</p>	<p>・既存の集活センター12カ所の会長・役員との協議や、定例会、事務局会等に可能な限り参加し、課題の共有や必要な支援を行い、センターの円滑な運営、発展を中心に支援していく。</p> <p>・集活センターの立ち上げ、小さな集落、各種補助制度等については、可能性のある集落を訪問し状況も確認しながら、町村の意向も踏まえて支援する。</p>

令和4年度 地域本部における取組状況について

<中山間>

仁淀川地域本部

項目	取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
<p>新規立ち上げ</p> <p>訪問集落</p>	<p>① 集落実態調査で集活センターに取り組みたいと回答した集落を中心に、市町村と協議のうえ、候補先の掘り起こしを行う</p>	<p>① 【8～10月集落対策強化月間】※7月ブロック会にて共有</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域本部内で候補先のリストアップ（8～9月） ・ 市町村（担当課長）との協議・検討（8～9月） ・ 対象地域へのアプローチ、事業説明（8月～） <p>⇒ 集落実態調査で取り組みたいとする集落の中から集活センター及び小さな集落活性化事業で検討開始</p> <p>【いの町清水土居】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町同席で松村地区長と面談（8/9） ※ 地区長は集落維持のため必要とし開設に前向きであるが、地域全体での検討はこれから ※ 既存の防災活動に加えて、買い物支援や集いの場（サロン）づくりへの取り組みを意識 ※ 清水第一小学校（休校）隣接の幼稚園跡の施設の活用を希望 ・ 地域の検討に向けた状況を聞き取り(10月) ・ 役員会で事業説明や協議を予定(2～3月) <p>【いの町柳瀬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区長や町議から相談があり、地域本部と町で地区長を訪問（11/9） ※ 支援制度等を説明、住民主導でなく町議の意向によるもので、進展の可能性は薄い <p>【いの町向流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 役場の状況確認では地域内の対立もあり進展の可能性は薄い <p>【仁淀川町別枝】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「秋葉まつりの里・未来会議」定例会への参加（6/2、6/16、10/26、12/23、1/26） ・ 町と協議（8/15） ⇒ 「秋葉まつりの里・未来会議」を母体とし集活センターもしくは小さな集落活性化事業の活用について検討開始 ・ 地域への事業概要説明（10月） ・ R5年度、小さな集落活性化事業を活用し、地域づくりに取り組むことを決定（10月） 	<p>① 集落実態調査で取り組みたいとする22集落を候補先とすべきではあるが、代表者の考えにも温度差があるため、やみくもにアプローチするのではなく、まずは市町村の見極めが重要。また、回答いただいた代表者へのフォローも含めて市町村の関与が必須</p>	<p>① 集落実態調査で立ち上げの意向のある集落を中心に、市町村と協議のうえアプローチを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町村や候補先の地域住民との協議、取り組みに向けた支援 <p>【いの町清水土居】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2～3月の役員会で了解がいただければ地域の総会で事業の説明等を予定（4月） <p>【いの町柳瀬】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民主体で取り組みの方向になっていけば支援へ <p>【いの町向流】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民主体で取り組みの方向になっていけば支援へ <p>【仁淀川町別枝】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは、小さな集落活性化事業を活用し、専門家やコーディネーターによる伴走支援のもと、地域課題の洗い出しや共有を行うとともに、地域の将来像についての議論を深め、地域住民の一体的な取り組み（空き家を活用した民宿・カフェの運営など）へとつなげる ・ この取り組みを今後の集落活動センターの仕組みづくりにつなげられるよう支援する

		<p>② 現在、立ち上げに向けて検討している地域において開所を目指す</p>	<p>② 野老山地区の立ち上げについて越知町の意向の確認及び県・町の意識合わせ</p> <p>【越知町野老山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R2開設、R3拠点施設を改修後の活動開始を目指し、協議を行っていたが、地域住民の間で対立し、意思疎通が図れず、進まない ・ 立ち上げに向け、今後の円滑な協議を進めていくため、キーマンの交代等を提案したものの、町はこれまでの経緯等もあり、当初既定路線で協議を進める意向であったが、協議が一向に前に進まず、事態を打開するため、再度、町と協議を行ったところ、今後の方向性や進め方について関係者と検討することになった（2月頃） ・ 開設に向けた地域内での協議（※） <ul style="list-style-type: none"> ※ 9/4 総括・支援員同席 ※ 10/23 支援員同席 ・ 上記の組織とは別の有志で活動する組織「ところやま探検隊（9/9創設）」による活動開始（野老山の観光振興や畑の草刈り、町道の清掃作業など） <ul style="list-style-type: none"> ※ 今後、集活センターにも関与の予定あり 	<p>② 【越知町野老山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R元年度から協議を開始しているが、町が立ち上げの核として考えている組織「野老山おとなの学校」と地域住民の対立で膠着状態（町も協議には参加しているが一向に進まない。）。 ・ 集活センターの検討に際しては地域での丁寧な合意形成に一定の時間を要するものの、地域住民のモチベーションを維持するためにも、関係者間で今後の進め方や方向性について協議が必要 	<p>② 【越知町野老山】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 関係者間での今後の進め方や方向性についての協議を踏まえ、まずは小さな集落活性化事業を活用し、専門家やコーディネーターによる伴走支援のもと、地域の課題や将来像について議論を深めていき、単独集落での地域住民のまとまりを形成し、一体的な取り組みへとつなげる ・ この取り組みにより、集落間の連携への発展、そして将来の集落活動センターの仕組みづくりにもつなげられるよう活動を進める
<p>地域の元気づくり事業費補助金の活用</p>	<p>集落支援の営業ツール、また、将来的な集落活動センターの掘り起こし、誘導策として活用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集活センターの掘り起こし活動の際に事業紹介 <ul style="list-style-type: none"> ※ いの町清水土居地区長（8/9） ※ いの町柳瀬大原地区長（11/9） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度も活用を検討したものの数万円の事業でも1/2補助のため、他の定額補助を活用することになった ・ 自己負担が伴う補助事業を利用することは厳しいという、地域住民からの声がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な場面で事業を紹介し、活用を勧める <ul style="list-style-type: none"> ※ 事業の説明チラシ（中山間地域対策課作成）を活用 	
<p>集落</p>		<p>① 仁淀川地域の集落活動センターの相互交流の促進、連携強化（ネットワーク構築）</p>	<p>① 仁淀川地域10センターのネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換会を開催し各センターの活動や課題を共有（7/15） <ul style="list-style-type: none"> ※ ゆるくしっかりとつながる継続性の高い集まり（会）とするため規約を作成し、「仁淀川地域集落活動センター情報交換会」を立ち上げた ・ 地域づくりリーダー育成セミナー（中山間地域対策課）に仁淀川地域でバスツアーを企画し、12名が参加（9/16） <ul style="list-style-type: none"> ※ 集活センターの立ち上げに向けて検討中の「野老山」集落支援員も参加 ・ 仁淀川地域集落活動センター情報交換会の開催（11/30、とかの集活センターあおぞらにて） <ul style="list-style-type: none"> ※ 斗賀野地区の取組事例の紹介、後継者問題等についてグループワークで意見交換、懇親会 	<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意見交換会の中でも共通の課題として後継者問題が挙がる。 ・ ブロックごとの活動への支援拡充（県連絡協議会予算） 	<p>① 情報交換会について年間2回程度開催予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 毎回テーマを設定、懇親会も計画 ※ 共通課題の「後継者問題」等を中心に、各集活の課題等の情報交換を予定

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">集活動センター</p> <p style="text-align: center;">既存センターの支援</p>	<p>うちんくのビジネス塾 アドバイザーの活用状況</p>	<p>② 集活センター活動の継続・発展に向けた適時適切な支援</p>	<p>② アドバイザー事業、各種補助金の活用について市町村と連携して支援</p> <p>【仁淀川町長者・下名野川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各集活センターにおける地域活動への支援 しもの郷定例会への参加 (4/12、5/2、5/19、6/16、8/25、9/22、12/15) しもの郷総会への参加 (6/26) <p>【越知町横島西部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事業内容が類似している仁淀川町の集活センター「しもの郷」への視察及び意見交換 (6/16) 県立消費生活センターの出前講座の実施支援(6/28) 仁淀川地域本部ブロック会の開催場所として利用 (9/27) ※お山の喫茶店のかな 役員会資料の作成支援 (12月) 確定申告や決算に向けた資料作成支援を予定(1月～) 次年度の活動内容の見直しに向けた支援 ⇒ 2月に臨時総会を開き会員等へ提案を予定 <p>【佐川町尾川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動（イベント等）への支援 あったかふれあいセンターの機能（活動はセンター内、事務所は尾川中央保育園）の集約化のため、集活センター施設の増築（竣工予定3/15）に向けた補助金（コロナ臨時交付金）活用への支援 仁淀川地域本部ブロック会の開催場所として利用 (8/31) ※ ビザ焼き体験 <p>【佐川町加茂】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営組織（加茂の里）主催の地区住民を対象とした商品開発事業の支援（R2講義～） (アドバイザーの選定、中山間AD活用の提案) <p>【佐川町黒岩】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化に向けた検討支援（中山間AD活用の提案） 	<p>② 集活センターの日常的な状況の把握</p> <p>【仁淀川町長者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続可能な運営（後継者不足） <p>【仁淀川町下名野川】</p> <ul style="list-style-type: none"> クラフトビールの安定した生産体制の構築(人員不足等) <p>【越知町横島西部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区住民のさらなる参画 喫茶事業の運営に地域住民の参画意欲が低く、担い手の確保が難しいため、事務局員がカバーしている。それに伴い、新たな取り組みの企画や実践する余力がない状況である <p>【佐川町尾川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民（高齢者）がコロナの感染状況を鑑みて、地域活動（イベント等）が停滞気味 <p>【佐川町加茂】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民（高齢者）がコロナの感染状況を鑑みて、事業の再開のめどが立たない <p>【佐川町黒岩】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化に向けたノウハウの習得 	<p>② 会合への参加などにより積極的にコミュニケーションを取り、集活センターの実態に応じた最善の策を市町村と連携し、請じていく</p> <p>【仁淀川町長者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定・継続した運営に向けた協議・検討への支援 <p>【仁淀川町下名野川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運営に関わる地域おこし協力隊の継続支援 <p>【越知町横島西部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民参画に向けた意識醸成の取り組みを支援 <p>【佐川町尾川】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動の推進のための備品購入に向けた補助金（コミュニティ助成事業[※]）活用への支援 ※ 宝くじの社会貢献広報事業 <p>【佐川町加茂】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域住民（高齢者）のコロナへの対応状況をみて事業再開（中山間AD活用） <p>【佐川町黒岩】</p> <ul style="list-style-type: none"> 法人化に向けた検討支援（他団体（法人）の情報収集・提供、中山間AD活用の検討）

			<p>【佐川町斗賀野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域活動への支援 ・ 県集落活動センター連絡協議会(副会長)業務への支援 ・ 仁淀川地域集落活動センター情報連絡会の開催場所として利用 (11/30) <p>※ 尾川地区集落活動センターたいこ岩のお弁当で懇親会</p> <p>【いの町柳野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R4加工場改修 (設計内容の検討) への支援、財務AD ・ 導入(6月) ・ 集活補助金(継続・発展支援事業)手続・申請支援、交付決定(6月) ・ 農村RMO補助金手続・申請支援、交付決定(8月) ・ 食品加工場改修完成予定(2月) ・ 食品製造業許可取得、稼働開始予定(3月) <p>【いの町越裏門・寺川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ きのこと栽培作業の支援 ・ R4からの会計ソフトの活用支援(農振センターと連携) ・ 伊野商業と連携し舞茸を使った協働の取り組み(現地でのパスタメニューの試作等) (10月) ・ イベント等でのまいたけの販売促進支援(9~10月) <p>【日高村能津】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経営立直しに向けた財務関係支援 (総会、役員会等) ・ 食堂部門開始(4月)の支援 (メニュー、経費管理等) ・ 仁淀川地域本部ブロック会の開催場所として利用 (7/21) <p>※ のうずばあば会のランチ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体験観光部門再開(7月)の支援 (内容、契約検討等) ・ 情報発信 (さんしんGO放送(8月)の支援) ・ 村内事業者との商談支援による新規取引実現(11月~) ・ イベント実施実施にかかる支援(12月) 	<p>【佐川町斗賀野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した事務機能の維持 (事務職員の後継者育成) <p>【いの町柳野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食品加工場の安定的な稼働及び運用 ・ HACCPの考え方を取り入れた衛生管理の徹底 <p>【いの町越裏門・寺川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞茸等の販路拡大 ・ 集落支援員の負担軽減 (事務局体制の構築) <p>【日高村能津】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営体制の維持及び経営改善 	<p>【佐川町斗賀野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人材 (事務職員) の育成に向けた取り組みを支援 <p>【いの町柳野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安定した加工場の稼働及び衛生管理の徹底に向け役場とともに継続支援 ・ 新製品開発検討の支援 (6次産業化普及開発推進事業等活用予定) ・ 農村RMO事業の2年目事業の実施 (試作品開発、パッケージデザイン改良等) <p>【いの町越裏門・寺川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 舞茸等の販路拡大、伊野商業との協働の取り組み (販売、商品開発検討) の継続への支援 ・ 事務負担の分散・軽減への調整支援 <p>【日高村能津】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業継続できるよう固定費削減等の具体化の支援 (太陽光発電、商業用オーニングテントの設置※集活センター推進事業費補助金(継続・発展支援事業)活用) ・ 地域の集いの場づくりや移住促進など集活センター設立時の目的の実現に向けて支援 ・ レストランメニュー開発、オムライス街道への新規参加支援
	<p>集マルシェ・特産品販売会への参加の働きかけ等</p>	<p>加工品・特産品開発、またブラッシュアップを検討している集活センターには「集マルシェ」への出店を照準に、アドバイザーの導入や集活補助金(継続・発展支援事業)の活用による商品化を支援</p>	<p>特産品販売等への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 氷室の里：特産品販売会 (とさのさと) (10/6 とさのさと) ・ しもなの郷：ふるさと・えいもん集マルシェ (10/16 とさのさと) (3/12とさのさと出店予定) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集活センターを支える担い手不足や事業活動の内容により、特産品販売、「集マルシェ」への出店が一部の集活センターに偏る 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「集マルシェ」への出店などによる販売を通して、地域で稼げる仕組みづくりにつなげられるよう、まずは、加工品・特産品開発、ブラッシュアップに意欲のある集活センターの状況把握 (4月~) ・ 今後、仁淀川地域 (10センター) での開催も検討

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">小さな集落</p>	<p>R4 実施箇所</p>	<p>実施箇所の選定及び円滑な事業実施の支援</p>	<p>【いの町（2地区：神谷、上東）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 神谷、上東地区ともに地域代表者に説明。地域の中で合意形成を図り、事業を実施 <ul style="list-style-type: none"> ※ 上東地区 地域コーディネーター決定(9月) ※ 神谷地区 地域コーディネーター決定(10月) ・ 小さな集落活性化事業費補助金交付決定(11/11) ・ 小さな集落活性化事業費補助金変更申請・決定(1月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域を巻き込んだ取り組みの実施 ・ コーディネーター確保に苦慮（地区内に牽引役が存在する場合は、コーディネーターの設置を必須としないなどの要件緩和の検討 ※但し、横展開の役割の問題をクリアする必要があるため、その仕組みづくりが必要。例えば、その牽引役をアドバイザーとして派遣することで対応できないかなど） ・ 地域で真の課題に向き合って丁寧に合意形成し、事業を進めるには相当の時間と支援を要する 	<p>【いの町（2地区：神谷、上東）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いの町、地域本部で連携して地域の思いを実現できるよう支援
	<p>R5以降の掘り起こし</p>	<p>実施箇所の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R5:3市町 ・ R6:2町村 	<p><R5年度（見込み）> ※各市町 R5当初予算計上済</p> <p>【仁淀川町】別枝地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「秋葉まつりの里・未来会議」定例会への参加(6/2、6/16、10/26、12/23、1/26) ・ 地域への事業概要説明（10月） ・ 地域と町による次年度予算化に向けた協議（10月～） ・ 地域と町による事業計画の検討（11月～） ・ 地域コーディネーター候補者決定（11月） <p>【越知町】明治東部地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 地域おこし協力隊卒業後(R5.3月)の集落支援員への着任を見据え、当該事業の活用を検討中 <p>【越知町】野老山地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 集活センターの仕組みづくりを目指し、地域住民間の対立により協議が一向に進めないため、R5は単独集落ごとに地域の課題の掘り起こしや共有、また地域の将来像について協議を進めていく方向で当該事業の活用を町と協議中 <p>【土佐市】宇佐地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宇佐地区市政懇談会(11/15)で事業について紹介 ・ 宇佐まちづくり計画策定準備会実施(12/22) ・ 地域住民向けキックオフ講演会実施予定(R5.3月) <p><R6年度（見込み）></p> <p>【佐川町】町中心部</p> <p>【日高村】沖名地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ※ 共同作業の継続などの仕組みづくりに取り組みたい意向 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コーディネーター人材の確保 	<p><R5年度実施分（3市町）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市町、地区住民との協議（事業の進め方など） ・ 地区のワークショップ、事業計画づくり、事業実践・検証などの事業の円滑な推進を支援 <p><R6年度実施分（2町村）></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町村と協議のうえ候補先を決定 ・ 候補先の地区への事業説明・提案（10月） ・ 実施地区の決定 <ul style="list-style-type: none"> ※ 予算編成時期（11月まで） ・ 町村の当初予算計上

<p>特定地域づくり事業協同組合制度 (新規組合設立に向けた掘り起こし)</p>	<p>総務省のニーズ調査の結果や 県の説明会等で検討する意向 のある市町村を支援</p>	<p>【いの町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町、商工会との事業実施に向けた事前打合せ (8/2,17,23) ・ 事業者ニーズ把握のためのアンケート調査を町と商工 会の連名で実施(~9/30) ・ アンケート調査まとめ (11月) ・ 町・商工会・事業者との事務局体制の打合せ(12/21) ・ 特定地域づくり事業推進プロジェクトチーム発足予定 (2月)※アドバイザー (こうち企業支援センター田村 理事長) 派遣 ※設立に向けたスケジュールの協議・共有 	<p>【いの町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者ニーズに応えられるような仕事の組み合わせや 利用料金、給料等の設定 ・ 事務局体制の構築 ・ 経営の安定化に向けた事業計画 (収支計画) づくり 	<p>【いの町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年度内の組合設立に向けて特定地域づくり事業推 進プロジェクトチームによる協議を進める ※ 東洋町バツゲン協同組合等の先行事例を参考 ※ 事業検討にあたっての全国の先行事例の運 営・経営実態等の情報収集し、PTでの共有、 検討材料とする ・ 県中小企業団体中央会との連携
<p>生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り 起こし</p>	<p>地域や市町村との関わりの中 で生活する上での不安・不便 の解消の視点でデジタル化を 支援策の一つとして提案し、 要望に応じて支援</p>	<p>【いの町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ にこ淵の渋滞対策についてオープンイノベーションプ ラットフォーム(OIP)課題説明会実施 (R3.12/3) ・ 企業から課題解決に向けた提案 (6/24) ・ プロジェクト組織の組成・検討 (7月) ・ R5年度中山間地域デジタル化支援事業等の活用に向 けた支援(カメラの設置費用等) <p>【日高村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ R5年度中山間地域デジタル化支援事業の活用へ向け た支援 (移動サービス及び能津地区の買物支援の取り組みを 計画中) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ オープンイノベーションプラットフォーム事業と、中 山間地域対策課事業の組合せによる円滑な事業実施 	<p>【いの町】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ カメラ等の設備導入 (R5.7~9月) ・ 駐車場の混雑の見える化実証実験 (R5.10月~3 月) <p>【日高村】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動サービス及び買物支援サービス実現に向けた 支援(交通不便地区のデマンド輸送、能津マートを 基点にしたネット注文等の買物支援を予定)

<全体>

	取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1Hを意識)
<p>R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況</p> <p><知事発言抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりお願いしたい。 ・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。 ・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。 	<p>地域本部の職員がそれぞれに①アンテナを張って地域や市町村の情報収集をしっかり行い共有②相談案件には期限遵守を基本として迅速に対応③「どうやったらできるか」に誠実に向き合う。地域の実情に即した支援策となるよう④地域のニーズを各部局にしっかりと伝え、連携して支援していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 駐在職員による情報収集、総括、振興監への情報共有、相談が日常的に行われている <ul style="list-style-type: none"> ※ 市町村や関係機関とも良好な関係が築けており、情報収集・提供が十分に行えている ※ 日常的に駐在職員と総括や振興監との意見交換あり ※ 総括、振興監が市町村訪問の際には首長や役場職員と意見交換 ・ 地域本部内で月1回開催するブロック会（定例会）を通じて情報共有や支援の方向性について、互いに共有、意見交換を実施 <ul style="list-style-type: none"> ※ 進捗管理にも欠かせない場となっている <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の実情に応じた課題解決に向けて、農・林や保健福祉の各部局の事業活用など連携して支援 <p>【佐川町尾川】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地域福祉政策課 <ul style="list-style-type: none"> 町内4箇所のうち尾川地区のみが、あったかふれあいセンター機能の一部が分散（活動はセンター内、事務所は尾川中央保育園）されていたことから、効率的な施設運営を目指し、すべての機能をセンターに集約化するための増築にかかる財源確保に向けた取組支援 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ コロナ臨時交付金活用（町予算10月補正） 竣工予定3/15 <p>【いの町柳野】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 農業政策課(RMO) <ul style="list-style-type: none"> 食品加工場整備の機器等導入で、農村RMO事業を併用事業計画や申請等について農業政策課と随時協議（R4.8.5交付決定：1,664千円(冷凍冷蔵庫、圧力釜、調理用具等)） * 中央西農業振興センター（イタドリ栽培技術） <p>【いの町越裏門・寺川】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 中央西農業振興センター（農業簿記指導） <ul style="list-style-type: none"> R4導入の農業簿記会計ソフト活用支援 <p>【日高村能津】</p> <ul style="list-style-type: none"> * 子ども家庭課（こども食堂の補助金に関する情報提供） <ul style="list-style-type: none"> 夏休みの子どもの集いの場の試行 今後、補助金活用を検討予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域支援企画員へ取組方針の理解と意識づけを行い、行動変容につなげる <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 部局間連携の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な地域本部内での情報共有や意見交換により市町村や地域の動きを把握し迅速に対応 ・ 振興監、総括は市町村訪問の際に積極的に首長、課長との意見交換により、市町村の取組方針・戦略を把握し、県の施策・事業へ誘導、また、施策づくりに活かす <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的な地域本部内での情報共有や意見交換により市町村や地域の動きを把握し、各部局と共有。必要に応じて各部局と市町村とのつなぎ役、調整役を担う

令和4年度 地域本部における取組状況について

<中山間>

高幡地域本部

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
新規立ち上げ	訪問集落	<p>○集落活動センター16箇所への継続支援と、新たな候補を掘り起こし(3箇所)、市町村及び地域の関係者と継続的に協議を実施</p> <p>①津野町 精華地区 地域の活動の大きな原動力の一つであった小学校の存続について、統廃合の時期が明確になったことから(令和5年度末)、住民の想いに配慮しつつ、センター立ち上げのより具体的な検討に向けて支援を行う。 (各地区の意向確認、拠点施設の場所や整備時期等)</p> <p>②津野町 床鍋地区 住民主体の地域運営の取り組みが県内でも先駆的に行われてきた地域。代表者の意向を踏まえながら継続的に活動のあり方を検討する。</p> <p>③須崎市 吾桑地区 令和3年10月に吾桑地区地域自主組織が立ち上がり、集落活動センターの運営母体できた。 吾桑駅の利活用の検討と併せて、須崎市と地域自主組織をはじめ地域の意向を確認する。</p> <p>④その他の地域 ○集落実態調査の各集落の意向をふまえて、個別集落へのアプローチを行う。 ・「わからない」→町の広報誌等を活用した周知依頼 ・「取り組みたい」→役場等と情報共有のうえ個別の聞き取りを実施</p>	<p>・地域住民が気軽に集える場を確保 ・特産品、加工品づくり(「釜ん茶」「鶴亀焼き」)やイベント実施</p> <p>・町内先進地区(白石、船戸)への研修 ・区域内の全区長への集落活動センター開設に向けた意向確認の検討開始 ・地域ビジョンや活動計画(人員体制、予算、スケジュール等)の作成に向けたワークショップの開催(10月～ 運営委員+地区長) ・地区長への個別説明やアンケートを実施</p> <p>・代表者訪問、情報収集 ・代表者へのセンター立ち上げの意向確認(8月) ・地域おこし協力隊による支援(通年) ・地域住民へのアンケート調査の実施(10月～) ・集約結果をふまえた支援(11月～)</p> <p>・地域課題(交通)や地域自主組織について情報共有 ・公民館館長会を活用した近況についての情報収集(10月～) ・須崎市や地域自主組織との協議(10月～) ・吾桑地区での主な活動団体等へのヒアリング(11月～) ※「ほっけん(雪割桜キャンドルナイト)」 ※JR吾桑駅の有効活用の取組み ・デジタル実証事業による課題解決に向け2/2にOIP説明会を開催予定</p> <p>各市町担当課長との協議</p> <p>○須崎市 「地域自主組織」を踏まえた集落活動センターや小さな集落活性化事業のあり方・方向性についての協議</p> <p>○中土佐町、四万十町 実態調査で何らかの意向を示した地域についてのヒアリング ・現段階では、地域として集落活動センターを目指すまでには至っていない。 ・代表者の個人的な意向であり地域全体を反映していない ・行政の支援を受けず自由に活動したい など</p>	<p>・小学校の統廃合の決定による地域住民のモチベーションの低下 ・地域イベントの開催や、鶴亀焼き・釜炒り茶の製造販売が活動のメインとなっているが、集落活動センター立ち上げに向けて住民のニーズを把握し活動の幅を広げる必要がある。 ・住民の意識と合意形成 精華地区は19集落で構成されており働き世代も多く、各集落の地区長や地域住民の合意形成の場をどうつづけていくかが課題。</p> <p>・代表者は、現在の活動を継続していきたいと望んでおり、「集落活動センター」として取り組むことに難色を示している。 ・代表者の意向だけでなく、集落の住民の想いを踏まえて、将来のあるべき姿を再検討する必要がある。</p> <p>・地域自主組織への委託により一定の活動を行っており、(経済活動に対して前向きでない)集落活動センターとして取り組む事業の検討が必要。 ・エリアが幅広く、桑田山地区、吾井郷地区それぞれに異なる課題がある。 ・地域自主組織が立ち上がったばかりで事務局が手一杯の状況。</p> <p>・各集落毎のキーマンとなる人材の把握、掘り起こし ・各市町役場との対象地域へのアプローチに対する方向性の共有</p> <p>・具体的な集落活動センターの開設検討まで行き着かず、各イベント開催の打合せが中心。</p>	<p>・アドバイザー導入などによる住民の合意形成への支援 ・集落活動センター立ち上げのための活動計画(人員体制、予算、スケジュール等)の作成(4月～9月)、拠点施設の検討についての話し合いの実施(運営委員+地区長)</p> <p>・地域住民のアンケート等を踏まえた、代表者と地域のキーマンとの協議の場づくり ・森の巣箱運営委員会の活性化 ・森の巣箱20周年記念イベントへの支援 ・市町村との連携強化</p> <p>・OIPでの意見を踏まえ、デジタル化支援事業費補助金による交通課題の解決に向けた補助申請および実証(4月～) ・実証事業を行う中で、自主組織との関係構築につとめ、集活化に向けた事業の芽だしにつながる情報収集を行う(随時)</p> <p>・須崎市 市の方針として「地域自主組織」(公民館活動をベースにした取り組み)の立ち上げを基本としていることから、その取り組みの進捗状況を確認しつつ連携を図る。 ・津野町 実態調査で積極的な意向を示した地区は、集活の新規立ち上げ予定地区(精華地区)や「小さな集落」実施地区と重なっており、引き続き実現に向けて取り組んでいく。 ・四万十町、中土佐町 地域への訪問による情報収集や集落活動センター等の情報提供を行っていく。</p> <p>○地域活動の活性化を目指す取り組みを継続支援 ・市町村への情報提供</p>
	集落活動センター	地域の元気づくり事業費補助金の活用	<p>○地域活動の活性化を目指す取り組みを継続支援。</p>	<p>○津野町 精華(再掲) ・津野町精華地区の集落活動センター開設に向けた話し合いや地域住民の集いの場の確保 (R4事業費:330千円 県補助金:165千円)</p>	<p>・具体的な集落活動センターの開設検討まで行き着かず、各イベント開催の打合せが中心。</p>

既存センターの支援	うちんくのビジネス塾 アドバイザーの活用状況	○各集落活動センターが抱える課題や、今後取り組みたい事業の掘り起こしを行い、適切なアドバイザーを派遣・支援する	○津野町 ふなと ・草花を活用したリース・スワッグ等の作り方への実践指導 ○津野町 しらいし ・これまでの活動の分析と今後の活動計画づくり ○須崎市 あわ ・パタフライピーを活用した商品づくりの助言指導 ○四万十町 仁井田のりん家 ・地域の特産品である仁井田米の米粉グラタンの実践・指導 ○中土佐町 おおのみ北 ・収益事業開始にともなう会計処理の実務指導 ○梶原町 四万川 ・キジ商品の販売戦略、商品パッケージデザインの助言	○津野町 ふなと ・地域の植物を活用した体験プログラムのニーズの把握 ○津野町 しらいし ・コロナ禍後の運営体制の整備 ○須崎市 あわ ・施設の設備や広さから、おもてなしを超えてのロット確保が困難 ○四万十町 仁井田のりん家 ・新メニューや習得した調理技術の活用・実践 ○中土佐町 おおのみ北 ・指導内容を、今後の円滑な事務処理につなげること ○梶原町 四万川 ・新商品の方向性と販売戦略	○四万十町 仁井田のりん家 他（合同開催を含めて検討） ・食品表示についての研修及び指導 ○中土佐町 おおのみ北 ・イタドリの加工品づくりのアドバイザーの導入を検討
	集マルシェ・特産品販売会への参加の働きかけ等	募集のタイミングやセンター訪問の機会等に情報提供や声かけを行い、積極的な参加を促す。	○催事参加の呼びかけ、出店準備の支援 集マルシェ参加：津野町しらいし、ふなと、須崎市うらのうち、あわ、中土佐町おおのみきた、四万十町仁井田のりん家 ・金高堂書店特産品コーナー委託販売の支援 出品：津野町奥四万十の郷、しらいし、須崎市うらのうち、あわ、まつばら ・県庁への販売促進支援 越知面のクリスマスセール（シフォンケーキ・シュトーレン）での販売（12月23日） ・キジ祭りの共同主催（「四万川」「本川手箱キジ生産企業組合」との合同開催（3月21日） ・商談会への出展支援 高幡地域まるごと高知商談会（9/29：あわ、おおのみきた） 高知県産品商談会（10/26：あわ、おおのみきた） 関西版県産品商談会（11/22 おちめん）	・高齢者が多く、新型コロナウイルスの感染拡大状況に敏感 ・出店時のメンバーの固定化や参加者の負担感 ・適正な食品表示等、関連法規への対応が必要	【おおのみきた】 ・まるごと高知との取引開始を支援（冷凍塩漬イタドリ、イタドリ加工品）（5月～）
R4実施箇所		○津野町（1区 新土居地区、10区 高野地区） ・コーディネーター2名を配置して地域資源の把握、地域の課題等の意見集約を行う。	○集落カルテの作成 ・基礎資料の収集、地域資源マップや地元関係図の作成 ○キーパーソンの発掘・地域住民へのヒアリング ・ヒアリングシートによる地域住民の聞き取り ○その他 ・専門家会議や小さな集落活性化事業コーディネーター研修会への参加 ・専門家（図司教授）による現地訪問 〈地区別取り組み〉 ○1区 新土居地区 ・集落のビジョンづくりのための話し合い（9月～） ・加工品づくりや地域行事への支援（9月～） ・津野町イルミナイトの開催（12月～1月） ○10区 高野地区 ・地区内で特に小規模な2集落（木桑、大古味）について、地域住民へのヒアリングの継続。 ・地域住民とコーディネーターとの関係づくり	○1区 新土居地区 ・担い手（世話役）の不足、「困りごと」「危機感」がない ○10区 高野地区 ・集落が点在し活動の連携が困難、「困りごと」「危機感」がない	○津野町（1区 新土居地区、10区 高野地区） ・コーディネーター2名を配置して地域課題の把握や地域活動への参画を行う。 ○1区 新土居地区 ・8月の八幡祭りや12月のイルミネーションに向け、コーディネーターが地域と学生（須崎総合高校、県立大）との連携の可能性を探りながら活動していく。 ・地域資源である龍馬脱藩道を活かした活性化を行うため、地図の作成や看板の設置、イベントの企画等に取り組む。 ・集落のビジョンづくりのための話し合いの場づくり。 ・加工品づくりや地域行事への支援 ○10区 高野地区 ・伝統行事を核とした集落連携への支援 ・地域住民とコーディネーターとの関係づくり

小さな集落		<p>○四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の意向を尊重しながら候補地区の選定と事業の進め方について検討していく。 	<p>○四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下津井地区を想定した集落カルテの作成 ・専門家会議や小さな集落活性化事業コーディネーター研修会への参加 ・専門家（岡司教授）による現地訪問(下津井地区、下道地区) ・地域おこし協力隊（コーディネーター）の着任、地域住民へのヒアリング ・コーディネーターの活動開始に伴い、R5年度予算を要望 	<ul style="list-style-type: none"> ・下津井地区は、従来から交流イベントなどにより、地域活性化に取り組んできた地区であり活動を行いたい意向はある。住民間の話し合いについては、過去に十分行ってきた思いから、疲弊感と抵抗感があるため、事業の進め方に注意が必要。 <ul style="list-style-type: none"> →専門家の助言を受け、戸別訪問による課題や意見の聞き取りから始めている。 ・複数地区の選定にあたって更なる協議相談が必要。 <ul style="list-style-type: none"> →下津井地区との連携も想定し、困り事を中心に下道地区での継続的なヒアリングが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域おこし協力隊（コーディネーター）と協力隊OBが連携し、下津井、下道地区における課題把握や地域資源の活用方法について検討を行う。 ・交流人口を維持・拡大させるため、伝統芸能道具の修繕を行いつつ、下道から下津井までの森林軌道跡に整備されたウォーキングトレイルコースの活用を目指すとともに両地区の連携の道を探る。
	R5以降の掘り起こし	<p>○集落実態調査の結果をふまえ、掘り起こしに向けて市町村や区長等と協議を行う。</p>	<p>○須崎市：「地域自主組織」立ち上げに向けた手法としての活用を提案</p> <p>○中土佐町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落候補の選定に向けた協議 ・町と連携した地域のヒアリング（矢井賀、上ノ加江地区） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域自主組織の設置が基本となっているため、その取り組みの進捗状況を確認しつつ連携を図っていく必要がある。 ・地域の活力不足（高齢化・人材不足）に対する懸念から、町としては事業に消極的。 ・地域活動を行っている（行っていた）グループや個人をつなぐためのキーマンが必要。 (矢井賀地区) <ul style="list-style-type: none"> ・矢井賀をよくする会：矢井賀コミュニティセンターを活用したモーニング喫茶（施設改修により休止中） ・矢井賀つむぐ：矢井賀地区の住民・移住者による持続可能地域づくりを考える活動 (上ノ加江地区) <ul style="list-style-type: none"> ・上ノ加江漁業協同組合：漁業体験（かご漁、網漁等）の受入 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の趣旨や方向性を共有し、町と連携した地域の現状把握とヒアリング（矢井賀、上ノ加江地区） ・地域との関係づくり
	特定地域づくり事業協同組合制度（新規組合設立に向けた掘り起こし）	<p>○随時状況を確認しながら、検討に前向きな市町村に対して、中山間地域対策課等と連携して支援を行う。</p>	<p>○四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間振興部から町長への制度説明の実施 ・町の意向や検討状況の確認、アドバイス ・中山間振興部から町内事業者（四万十農産等）への制度説明の実施 <p>○津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お茶農家に対するニーズ調査の実施（7月～8月：約20戸+3法人） <ul style="list-style-type: none"> →60代以上が9割以上を占め同居家族が作業（短期雇用の確保と言うより担い手対策が急務） 	<p>○四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・窪川、十和、大正地域でのニーズの調整やバランス、組織づくりや運営に課題意識があり、やや消極的。 <p>○津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一部のニーズの把握にとどまっているため、幅広く事業者ニーズを把握する必要がある。 	<p>○四万十町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・十和地域で国の補助事業と地域おこし協力隊制度を活用したモデル的な取組が始まっており、事業の検証と課題の共有を図る。 <p>○津野町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内全体の事業者、関係各課等の状況把握を継続する。
	生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り起こし	<p>○集落活動センターをはじめ市町村、関係機関への周知や活用に向けた協議調整</p>	<p>○梶原町</p> <ul style="list-style-type: none"> ・集落活動センター越知面の事業として、アメゴの養殖場のデジタル化に向けて実証事業を活用 <ul style="list-style-type: none"> ※中山間デジタル化推進補助金交付決定（R4.8.4） ・円滑な事業の実施に向けた継続支援 <ul style="list-style-type: none"> 事業部会の設置や月1回の情報共有・進捗管理への参画等 先進地視察研修（11月） 水利権の許可手続き（慣行水利権の届出として整理） 水温水流監視システムの構築、監視カメラ・断熱水槽設置（12月） 孵化、養殖に必要な実証データの蓄積開始（12月～） <p>○須崎市との協議実施（R5年度事業として検討中）</p> <p>既存の集落活動センター(浦の内など)の課題解決や、「小さな集落」の掘り起こしに向けて、「デジタル化補助金」の活用を検討</p> <p>吾桑地区における交通課題の解決に向けてOIP説明会を実施し、R5年度の実証事業を行う。</p> <p>中山間地域デジタル化支援事業費補助金交付申請（3月予定）</p>	<p>○担い手の確保と人材育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業継承後の（高齢者の個人経営→集落活動センター）の円滑な運営 ・若い世代（Iターン者のアメゴ養殖）の人材育成 ・新規参入者でもアメゴ養殖ができる環境整備と養殖技術の習得支援 <ul style="list-style-type: none"> →経験値に頼っていた養殖技術のデータ化 <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エリアが幅広く、桑田山地区、吾井郷地区それぞれに異なる課題がある。 ・地域自主組織が立ち上がったばかりで事務局が手一杯の状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化補助金により整備した環境でのアメゴ養殖についてのデータの蓄積。 ・アメゴの販路開拓のため、近隣市町村の企業とアメゴ商品の試作を行う。 ・各種イベント等への出店支援と梶原町産アメゴの認知向上。 <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吾桑地区における移動手段の利便性の向上等事業の実証（4月～） <p>【再掲】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実証事業を行う中で、自主組織との関係構築につとめ、集活化に向けた事業の芽だしにつながる情報収集を行う（随時）

<全体>

	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況</p> <p><知事発言抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりとお願いしたい。 ・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。 ・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○集落活動センター等の現状把握と継続支援 <ul style="list-style-type: none"> ・課題の把握と対策に向けた協議（市町村、集活C） ・積極的な補助事業の活用や、外部の有識者・専門家のアドバイス導入 ・集落活動センター同士の視察や連携、関係づくり ○掘り起こし <ul style="list-style-type: none"> 市町村との情報共有と今後の方向性を協議 ・「集落活動センター」の設置や「小さな集落」などの取り組みが必要とされる地域の整理 ・実態調査をふまえた地域への訪問、ヒヤリング ・市町村と今後の進め方や考え方を整理 ○施策への意見聞き取り（市町村等） 	<p><集落活動センターの現状把握と継続支援></p> <p>【集落活動センター四万川】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キジ生産施設整備（事業費：22,000千円） ※「R4産振補助金でキジ肉加工施設整備：127,011千円） ※「R4農村RMOで農用地保全等事業：5,300千円） <p>【集落活動センターはつせ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キムチ加工施設整備・備品購入（事業費：1,267千円） <p>【集落活動センターまつばら】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・軽ワゴン車購入（事業費：1,564千円） <p>【集落活動センターおちめん】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アメゴの養殖場の水温・水流管理監視システム等実証（事業費：7,200千円） <p>【集落活動センターふなと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活性化プランの作成（申請検討中 事業費：500千円） <p><集落活動センター同士の連携や他分野との幅広い連携></p> <p>【集落活動センターおおのみ北】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶原町集落活動センター6箇所を訪問 ・イタドリ、キクラゲ栽培・加工への技術支援及び販路開拓について、農業振興センター、林業事務所、高知市及び仁淀川地域本部と連携 ・イタドリ加工一次処理（皮剥）でみなみ（大野見）と連携 <p>【集落活動センターあわ】</p> <p>集落活動センター越知面を訪問し、商品開発に活かす</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高幡地域集落活動センター連絡協議会の開催(11月) ・同協議会の次年度開催地（中土佐町）との協議（2月） <p><掘り起こし></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村との協議（再掲） ・須崎市：「吾桑地区」への働きかけと協議検討 ・津野町：「小さな集落活性化事業」の集落候補決定とコーディネーター2名配置 ・四万十町：大正地域を中心に調整、下津井地区、下道地区を中心に協議を継続 ・中土佐町：「小さな集落活性化事業」の集落候補の選定協議 	<p><集落活動センター></p> <ul style="list-style-type: none"> ・資材の高騰、新型コロナウイルス感染拡大の影響 ・次のリーダーとなる後継者の育成 ・活動グループの高齢化と担い手不足 ・3年後の自立を目指した集落活動センターの安定的な運営とそれを支援する市町村の施策の充実 <p><掘り起こし></p> <ul style="list-style-type: none"> ○小さな集落活性化の掘り起こし ・集落同士の連携や、複数集落での実施 ・地域のキーマンや地域との関係づくり ・主体的に動ける活動グループづくり <ul style="list-style-type: none"> ○集落活動センターの掘り起こし ・リーダーの不在 ・活動グループの気運の醸成と地域住民の総意 ・安定的な運営の検討と市町村の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○市町訪問による情報交換（4月～5月） ○高幡地域集落活動センター連絡協議会の開催(年1回) ○集落活動センターゆすはら連絡協議会の開催（年3～4回） ○実態調査をふまえた現地訪問と支援策の周知(随時) ○小さな集落活性化や集落活動センター候補への継続的な働きかけ <ul style="list-style-type: none"> ※研修会の開催、意思確認、地域ビジョンの作成、住民の合意形成等 ○アドバイザー等各種支援の活用調整

<p>○センターや地域の課題に応じて、必要な時期にそれぞれの専門部署や関係機関につなぎ、連携をとりながら支援を行う。</p>	<p>○センターや地域の課題に応じて、必要な時期にそれぞれの専門部署や関係機関につなぎ、連携をとりながら支援を行う。</p>	<p><福祉分野との連携> あったかふれあいセンター事業の受託やサテライト会場として福祉分野と連携 【みなみ（大野見）】 あったかふれあいセンターのサテライト会場として連携 【仁井田のりん家】 サポート部会での宅老所運営及び台所部会との連携（利用者への弁当販売） 【うらの内、あわ】 あったかふれあいセンター事業の受託 【郷、白石、船戸】 あったかふれあいセンターのサテライト会場として連携(利用者への惣菜販売)</p> <p><保健分野との連携> ・営業許可等の申請についての事前相談 ・衛生管理指導・アドバイス（飲食店、加工所の整備等） ・高知県食品総合衛生管理認証（HACCP）の支援 →第2ステージ申請（おおのみきた イタドリ1次加工）</p>		
		<p><農業分野との連携> 【集落活動センター四万川】 「農村RMO」の活用による農地保全、地域資源活用等の取組支援(須崎農業振興センター等との連携) ・「推進チーム会」「サポートチーム会」開催による情報の共有・役割分担の確認、進捗管理 ・集落活動センター「四万川」推進委員会の設置 ・第1回サポートチーム会（8/26開催） ・各集落でのアシストスーツ導入の普及(9月～) →体力の低下などをアシストスーツの使用によりカバーする →各集落説明会(13集落)時における周知 ・新商品のパッケージ製作（キジ商品） →井上ワイナリーとのコラボ商品開発への支援 ・生活支援先進地の視察 →サポートチーム会への福祉分野（町福祉課他）との連携</p> <p>【全体】 農業振興センターとの勉強会の実施（12/27） ・中山間地域支援の連携に向けた情報共有</p>	<p>【集落活動センター四万川】 ○農用地保全 ・導入した「アシストスーツ」の有効活用 ・地域での共同作業の継続 ○生活支援 ・農作物の出荷農家の確保（現在北部ルートで7軒） ・「四万川」推進委員会及び町と福祉分野の連携強化</p>	<p>【集落活動センター四万川】 「農村RMO」を活用した継続支援 ・「推進チーム会」「サポートチーム会」開催による情報の共有・進捗管理 ・地域の農地の将来像の話し合い ・各集落でのアシストスーツの活用による負担軽減 ・キジ生産部会による生産拠点の形成と商品開発、販路、雇用の確保 ・安心安全サポート（農産物の集出荷と併せた高齢者の見守りなど）の実施に向けた検討・試行</p> <p>【全体】 ・農村RMO等の支援制度に関する集落活動センターへの情報提供</p>

令和4年度 地域本部における取組状況について

<中山間>

幡多地域本部

項目		取組方針【P】	R4年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W1Hを意識)
集落活動センター	新規立ち上げ	センターの設立を検討している2カ所への支援を継続	<p>① 四万十市大川筋 当初、R4年度末の設立を目指して検討 (地域住民の意向確認、事業計画の磨き上げ、収支計画の作成、体制づくり等) ・5～6月 設立に向けたアンケート調査 回収率約74%、うち設立に賛同する約77% (未回収を含む総世帯数でみても約57%と過半数が賛同) ・事業計画案や体制づくり等について再検討⇒設立時期、予算等の見直し 準備委員会(7/9、7/23、8/6、10/1、11/25) 役員会(4/7・28、5/18、6/21、7/8・22・28、8/5、9/14、10/20、11/17、1/25) 区長会(8/17)、「大川筋集活センター通信」の発行、 アドバイザー派遣(農業や化学肥料に依存しない農業の勉強会:12/3)</p> <p>② 大月町橋浦 ふれあいの場の創出により住民相互の親睦と融和を深め、元気で住みよい地域づくりを目指していくための取り組みを検討 ・橋浦ふれあいの場検討委員会(4/10・24、5/15・29、7/31、9/11、10/9、11/27、12/18) ・5月 アンケート調査 回収率37% 日常生活での心配・困りごと 1位:災害時の避難 2位:買い物できる店がない 拠点施設にほしい機能 1位:避難場所 2位:住民の憩いの場 ・アドバイザー派遣(特産品づくり:10/9、11/27) ・左義長に合わせた交流イベントの開催(1/14)</p>	<p>① 四万十市大川筋 ・設立に賛同する住民が多い一方で、主体的に関わる人材が少ない ・5年後・10年後にリーダーとなり活動を引き継いでいく人材が不足 ・前向きに検討を続ける一方で、人材や運営費の確保等の不安要素もあり、意見がまとまりにくい ・今年度から試験的にを行っている農業の取り組みについて、作業面での課題が多く事業化の見通しが立っていない</p> <p>② 大月町橋浦 ・橋浦漁協が整備を予定している拠点施設との調整 (整備内容:公衆トイレ、シャワー、休憩スペース、倉庫、事務室等) ・成果の期待できる実施計画の調整と地区内の気運醸成 ・設立後、取り組みを継続していくためのリーダーや担い手の不足</p>	センターの設立を検討している2カ所への支援を継続 ① 四万十市大川筋 事業計画や体制づくりについて、引き続き検討 ② 大月町橋浦 気運醸成、特産品開発に向けた取り組みの継続 夏～秋頃 先進地視察 11月 大月町産業祭でのPR、モニタリング 1月中旬 左義長交流イベント
	地域の元気づくり事業費補助金の活用	地域活動の活性化を目指す取り組みを支援 ・活用予定(当初):2カ所	<p>① 四万十市大屋敷 地域木材を用いた薪の生産による集落活動活性化 7/5 交付決定(250千円)、薪割機購入、実績報告</p> <p>② 大月町橋浦 10/13 交付決定(249千円)、ジャムなどの試作品づくり、取り組みのPR(広報物の作成) 大月町産業祭出展(11/3)、左義長と合わせた交流イベントの実施(1/14)</p>	<p>① 四万十市大屋敷 薪の販路拡大、効果的な生産・出荷体制の確立と安定した生産量の確保</p> <p>② 大月町橋浦 リーダーや担い手の不足</p>	同補助金の活用の可能性がある地域へ事業概要を説明し、地域活動の活性化を目指す取り組みを支援
	既存センターの支援	集落活動センターや地域からの要請に応じて、適宜アドバイザーを派遣 ・活用予定(当初):4カ所(R3から延期、継続含む)	<p>◆ビジネス塾 ①集落活動センター下川口家(土佐清水市)【継続】 第5回:4/18 「IMOMOCHI」商品開発、販路確保 足摺海洋館SATOUMIへの出品(11月～) インターネット販売(りぞけっと)の実施 クラウドファンディングの実施(2回:9/1～9/29、10/1～10/30) 高知県産品商談会への出展(10/26) 足摺岬市営駐車場での販売(12/18、1～3月、第3土曜日) イベント出店(サンリバー四万十11/19、大月町11/3) ネットヨタ南国 プレゼント品に採用(10月) ANA高知支店の搭乗促進キャンペーンの景品(3月納品予定)</p> <p>◆アドバイザー ②沖の島集落活動センター「妹背家」(宿毛市)【延期】 炭焼き技術の向上(R3に予定していたが、コロナ禍で延期→日程再調整) ③(株)大宮産業(四万十市:大宮集落活動センターみやの里)【継続】 第5回:5/16 経営の安定化と外商活動の強化⇒集活補助金(継続・発展)申請 ④集落活動センターであいの里蜷川(黒潮町)【新規】 第1回:7/29、第2回:10/6、第3回:12/1 ※第4回:2月(予定) 加工品(漬物「みょうがの雫」)の販路拡大、新商品(きゅうり等の漬物)開発 高知県内量販店個別商談会(9/1)、九州パワーグループ高知県商談会(10/5)、高知県産品商談会(10/26)等に参加 ⑤大月町橋浦【新規・立ち上げ検討中】 第1回:10/9 商品開発における基本的な知識について講義 第2回:11/27 加工事業の収益構造について講義 ※第3回:2月(予定) ⑥四万十市大川筋【新規・立ち上げ検討中】 農業や化学肥料に依存しない農業の勉強会(12/3)</p>	<p>◆ビジネス塾 ①下川口 生産を担う人員の確保、テストマーケティングの実施、販路の確保</p> <p>◆アドバイザー ②沖の島 島で約30年ぶりに炭焼きを復活 収益性を高めるために知識や技術の習得が必要 地域おこし協力隊員の卒業によって中核的な担い手がなくなり、炭焼きは休止している ③大宮 人口減少に伴い地域経済が縮小しているため、大宮米を核とした外商強化が必要 ④蜷川 本業があり、販路拡大に向けた営業活動ができる日が限られる ⑤橋浦 特産品開発のベースとなる取り組みやグループが無い ⑥大川筋 栽培技術の確立 将来的に農業体験や自然観察イベント等を実施できる体制づくり</p>	集落活動センターや地域からの要請に応じて、適宜アドバイザーを派遣 ・活用予定(当初):2カ所 ◆アドバイザー ②沖の島 地域おこし協力隊員の確保による運営体制の立て直し後、アドバイザーを活用予定 ⑤橋浦 先進地視察 商品製造・市場投入の検討

項目		取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1Hを意識)
集落活動センター	既存センターの支援	集活で製造・販売している地域特産品のPRと、交流人口・関係人口の創出を目指し、参加を呼びかけ	<p>◆集マルシェ</p> <p>参加呼びかけ、準備物の確認や店舗レイアウトについての協議</p> <p>10/16参加 やまびこ (三原村)</p> <p>3/12参加予定 みやの里 (四万十市)、やまびこ (三原村)、佐賀北部・蜷川 (黒潮町) 下川口家 (土佐清水)</p> <p>◆特産品販売会</p> <p>・大宮集落活動センターみやの里 (四万十市)</p> <p>7～8月 高知龍馬空港「ICHIBA」の市町村フェアに大宮米を出品</p> <p>高知龍馬空港で大宮米のPR販売 (8/20)</p> <p>うまいもの商店街 (四万十市 10/30)、四万十市産業祭 (11/27) への出店</p> <p>友好交流都市物産展 (枚方市) へ大宮米を出品 (11/18～19) ※当日販売は市が担う</p> <p>とさのさとアグリコレットへ大宮米を出品 (12月～)</p> <p>・三原村集落活動センターやまびこ (三原村)</p> <p>土佐の宴 (大阪 9/27、名古屋 11/1)、県産品商談会 (10/26) へ参加</p>	<p>○地理的な条件等により、県中心部で開催されるイベントへの参加が厳しい</p> <p>・高齢のスタッフが多く、早朝出発や長時間対応は体力的に厳しい</p> <p>・要冷蔵食品を一晩保存しておく場所 (設備) が無い</p> <p>・往復の旅費 (交通費・宿泊費) を考えると赤字になる</p> <p>○商品の種類、数の不足</p> <p>○コロナ禍で試食販売を控える傾向にあり、購入に繋がりにくい</p>	集活で製造・販売している地域特産品のPRと、交流人口・関係人口の創出を目指し、参加を呼びかけ
	小さな集落	R 4 実施箇所	交流人口の創出や集落の活性化を目指し、長く続く企画・無理のない企画づくりを住民が楽しみながら行えるよう支援	<p>・専門家会議 (7/12、9/8、2/2) への参加</p> <p>・コーディネーター研修 (8/16、1/16) への参加</p> <p>・九州大学 嶋田教授来訪対応 (7/27～29 大月町、黒潮町)</p> <p>◆黒潮町 市野々川・奥湊川</p> <p>コーディネーターから地区 (市野々川：区長、奥湊川：地区住民) へ取り組みの提案</p> <p>地区の会合等への出席</p> <p>体験イベント (味噌やこんにやくづくりなど) の実施検討</p> <p>◆大月町</p> <p>実施箇所の検討 (候補地域：月灘)</p> <p>コーディネーターの発掘、集活センターとの協議 (4/13、8/26、10/30)</p> <p>姫の里検討委員会 (11/10、11/30、1/12)</p>	<p>・活発に活動している団体があり、自分たちなりに地域で暮らしているため「困り感」が少ない</p> <p>・高齢化の進行により、交流人口の創出や地域活性化に気持ちが向きづらい</p> <p>・活動拠点が老朽化しており、ハード整備が必要</p> <p>・コーディネーターとなる人材の発掘</p> <p>・集活センターの組織体制強化 (役員の世代交代、事業の見直し等) が必要</p>
	R 5 以降の掘り起こし	R 4 の取り組み事例を紹介しながら候補集落の掘り起こし	<p>・市町村長訪問 (4/1～6)</p> <p>・市町村担当課長訪問 (8/23～9/1)</p> <p>・候補地区を検討中：四万十市 区長会 (1/26 西土佐) で事業概要を説明</p>	<p>・コーディネーターとなる人材の発掘</p> <p>・各市町村では、既存の集活センターの活性化を優先課題と位置付け</p>	◆宿毛市・土佐清水市・四万十市 引き続き、候補地区の選定や地区へのアプローチの方法・時期について、市担当課と検討
	特定地域づくり事業協同組合制度 (新規組合設立に向けた掘り起こし)	制度に関心がある市町村への説明やニーズ調査等を支援	<p>・制度説明への同席：三原村、四万十市 (西土佐)</p> <p>・市町村担当課長訪問 (8/23～9/1)</p> <p>・先進地視察 (東洋町、馬路村)</p> <p>◆四万十市 (西土佐)</p> <p>・説明会 (10/19) の開催後、ニーズ調査を実施</p> <p>⇒ 組合の活用を希望する事業者に対し、市が個別ヒアリングを実施することを検討中</p> <p>・事業見込み等を判断するため、専門アドバイザー (県派遣) の活用を検討中</p> <p>◆黒潮町</p> <p>・説明会 (11/17) の開催後、商工関係事業者を対象にニーズ調査を実施</p> <p>⇒ ニーズが少ないことや事務局長の候補者がいないことから、黒潮町役場内で再検討</p>	<p>・事務局を担う人材不足</p> <p>・繁忙期が重なる事業者間の派遣調整</p> <p>・将来的な行政負担 (特に、赤字になった場合の対応)</p>	◆四万十市 (西土佐) ・組合設立に向けた検討 ・専門アドバイザーの導入
	生活支援の取組 デジタル化支援事業費補助金の活用支援、掘り起こし	デジタル技術の活用により中山間地域の課題解決を目指す取り組みを支援 ・実施予定 (当初)：2カ所	<p>◆デジタル化</p> <p>県・専門家との情報共有会議 (6/24)</p> <p>事業実施主体となる協議会の設置要綱作成</p> <p>宿毛市沖の島デジタル化事業協議会 (9/2)</p> <p>①宿毛市沖の島</p> <p>・グリーンスローモビリティを活用した移動手段の確立</p> <p>→ R4.9～ 車両格納倉庫建設場所についての協議</p> <p>工期を考慮し、取り下げも含めて検討中 (線越不可のため)</p> <p>・デジタル技術による海面情報の共有</p> <p>→ R5.2 Webカメラによる港湾の海面状況観測試験</p> <p>②黒潮町</p> <p>・ドローンによる災害対応 (大規模災害時の被害状況の把握) や、平時の行方不明者の捜索</p> <p>・ドローンによる生活物資の配送 (中山間地域の買い物支援)</p> <p>R5.1 「黒潮町ドローン物流実証実験業務委託」公募型プロポーザル募集開始 (物流) → R5.2 受託事業者決定 (予定)</p> <p>R5.2 協議会の設置・開催 (予定)</p> <p>R5.3 実証事業 (予定)</p> <p>(物流：ドローンを活用した物資の輸送の有効性や課題把握のための飛行可能ルート調査)</p> <p>(防災：デモンストレーションの実施)</p>	<p>◆デジタル化</p> <p>グリーンスローモビリティの車両格納倉庫を建てる土地が確保できていない</p> <p>ドローンの使用に関する様々な課題あり (例)</p> <p>・消防署がドローン操作に人員を割けない⇒町職員が免許を取得する必要あり</p> <p>・地表から150m以上の高度を飛行すると法律に抵触する</p> <p>※山間部を飛行する場合、慎重なルート設計が必要</p> <p>・山林を飛行する場合、土地所有者の許可を取る必要あり</p> <p>※必須ではないが、トラブル防止のため</p>	引き続き、デジタル技術の活用により中山間地域の課題解決を目指す取り組みを支援

<全体>

	取組方針【P】	R 4 年度の取組状況【D】	取組にあたっての課題【C】	次年度の取組内容及びスケジュール【A】 (5W 1 Hを意識)
<p>R3年度第2回中山間総合対策本部会議での知事指示への対応状況</p> <p><知事発言抜粋></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場のニーズを結びつけていくところのモニター、つなぎ役をしっかりとお願いしたい。 ・現場での活用状況を踏まえての改善点など、PDCAのCAのところを担っていくエンジンの1つ。 ・施策がどう生かされているか、どういうところが足りないと思っているのかなど、アンテナをできるだけ張って欲しい。 	<p>積極的に地域に出向き、事業者や住民、市町村・県の関係部署などと連携しながら活動を支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村長訪問 (4/1~6) ・市町村担当課長訪問 (8/23~9/1) ・集落活動センターの総会や定例会への出席、イベント等支援を通じたニーズ把握 ・幡多地域ブロック会 (月 1 回) での情報共有 	<ul style="list-style-type: none"> ◆集落活動センター ○初期メンバー、特に役員等の高齢化が進行 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 役員の行事参加や事務等の分担を見直し、負担軽減が必要 ○後継者不足で世代交代が進まない <ul style="list-style-type: none"> ・地域に人材が乏しい ・仕事がある人は昼間の活動に参加しにくい ・無償 (または低額) で集活に関わってほしいと言出しにくい ・移住者への不信感が根強い <ul style="list-style-type: none"> ⇒ 移住者の情報提供等の支援強化が必要 ○経済活動の継続・拡大が困難 <ul style="list-style-type: none"> ・拠点施設の光熱水費等の捻出に苦慮 ・マンパワーの不足 ・特産品となる素材等の不足 ・ノウハウや知識、技術等の不足 <ul style="list-style-type: none"> ⇒ スポットではなく、通年支援が必要 ○買い物支援や見守り等、福祉的な取り組みの強化 ○行政や地域おこし協力隊等への依存度が高い ◆市町村との情報共有等 <ul style="list-style-type: none"> ・補助事業等の見直し、新たな支援策の概要等を早期に市町村と共有 (市町村の補正対応となると、工期や納期が確保できない) 	<p>積極的に地域に出向き、事業者や住民、市町村・県の関係部署などと連携しながら活動を支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集落活動センター ・既存センターの活動維持・強化 <ul style="list-style-type: none"> 観光博覧会「牧野博士の新休日～らんまんの舞台・高知～」に合わせた草花ガイドの取り組み等を契機とした地域活動の再構築